「人文学部学生プロジェクト」ブログ

人文学部の学生が自ら企画・編集・執筆するブログ!

授業やゼミ、実習、留学、就職活動など、人文学部に関する様々なトピックについて学生の視点から知ることができます。Instagramでは更新情報をお知らせしています。ぜひご覧ください!

blog

新潟大学
Faculty of Humanities, Niigata University
人文学部
CAMPUS GUIDE 2024

人を知り 文化を学び
未来を拓く

心理・人間学
Psychology and Human Studies

社会文化学
Society and Culture

言語文化学
Languages and Cultures

Faculty of Humanities,
Niigata University

2023年7月31日発行
発行／新潟大学人文学部　編集／人文学部広報・情報委員会

〒950−2181　新潟県新潟市西区五十嵐二の町8050番地　TEL 025−262−6281
（新潟大学人文学部学務係）
https://www.human.niigata-u.ac.jp/

印刷／株式会社 ハイングラフ　〒950−2022 新潟県新潟市西区小針1丁目11番8号　TEL 025−233−0321

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

Contents

02　学部長からのメッセージ
　　入試
　　奨学金、学費・経済支援制度

03　人文学部の教育

主専攻プログラム

05　心理・人間学
Psychology and Human Studies
心のしくみを実証的に解き明かす心理学と、人間の精神が生み出してきた思想的文献を読み解く人間学の分野を学びます。

09　社会文化学
Society and Culture
世界の歴史的・文化的・社会的背景を、様々な調査を通して明らかにします。歴史学、社会・地域文化学、メディア論などを学びます。

15　言語文化学
Languages and Cultures
日本、中国、朝鮮、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、ロシアの言語・文学・文化を学びます。そのために必要となる高い言語運用能力、鋭い言語感覚、そして豊かな表現能力を身につけます。

21　国際交流・大学間交流

22　留学生の声

23　就職データ

24　卒業生の声

25　キャンパス マップ

学部長からのメッセージ

キャンパスで育む好奇心と想像力

新潟大学 人文学部長
松井 克浩
MATSUI Katsuhiro

キャンパスに学生の声があふれる春が、ようやく戻ってきました。コロナ禍によりリモートで行われてきた授業が徐々に対面に切り替わり、今年度からはほぼ全面的に対面授業が実施されています。新型コロナが完全に収束したわけではないので注意しながらですが、広場や廊下ですれ違う学生たちの笑顔に接すると、こちらまで楽しい気持ちになります。この3年間の経験によって、教員と学生あるいは学生同士がキャンパスで直接顔を合わせてコミュニケーションすることの大切さに、あらためて気づくことができました。

大学では、自分の学びたいことを自由に学ぶことができます。人文学部ではとくに、学びを通じて皆さんに二つのことを身につけてほしいと願っています。一つは、視野を広げて多様なものの見方ができるようになること、とくに自分とは異なる立場を想像し、その考え方を理解できるようになること。もう一つは、迷った時につねにそこに立ち返ることができるような、自分の背骨となる思考の軸をつくることです。

人文学部には多くの専門分野があります。とくに最初のうちは、できるだけ広く学んで下さい。授業でも読書でも、そこにはさまざまな出会いや思いがけない発見があるはずです。2年生から主専攻プログラムに進みますが、その一つ一つがゆったり広めに設計されています。また新潟大学は、学部の枠を超えた「副専攻プログラム」にも力を入れていて、自分の好奇心に応じて本当に幅広く学ぶことができます。複眼的な思考を身につけると、ものごとが立体的に見えてきます。

そうやって視野を広げることはとても重要なのですが、自分の「軸」がないと、どんどん拡散して、収拾がつかなくなるかもしれません。人文学部では、最終的に特定の専門分野を選び、ゼミで関心を共有する仲間と議論し、その専門を深める形で卒業論文を書いてもらいます。これまで広く学んできたことも生かしながら、自分の背骨となるような深い探求を目指すのです。広い学びと深い学び、それを駆動する好奇心と想像力は、皆さんの一生の宝物になるはずです。

入試

一般選抜	前期日程	定員 140人
	後期日程	定員 40人
学校推薦型選抜		定員 30人
計		定員 210人

そのほか、人文学部には、下記の特別選抜があります。

- 帰国生徒特別選抜　●社会人特別選抜
- 帰国生徒特別選抜（10月入学）
- 私費外国人留学生特別選抜

いずれも若干人

- 3年次編入学試験（定員6人）

なお、入試情報の詳細は、令和6年度入学者選抜要項および学生募集要項を参照してください。

■ 学生募集要項（出願書類添付）請求方法

募集要項（出願書類添付）を請求する場合は、新潟大学Webページの資料請求ページ（https://www.niigata-u.ac.jp/admissions/request/）にアクセスして請求してください。

奨学金、学費・経済支援制度

本学は、国が実施する「高等教育の修学支援新制度」の対象機関に認定されていますので、一定の基準を満たす方は、給付型奨学金の支給と授業料等の免除を併せて受けることができます。詳細は日本学生支援機構のホームページをご確認ください。

また、本学独自の制度として、大学進学を諦めることのないよう経済的な支援を行う「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」や、一時的な学資の補助を行う「修学支援貸与金」、「人法経3学部の学生のみを対象とする奨学金」等、各種支援制度をご用意しておりますので、必要に応じて本学ホームページをご確認のうえ、担当窓口へお申し出ください。

人文学部の教育

教育理念と求める学生像

新潟大学人文学部は、人間・社会・文化を対象として、多角的・総合的な視野から教育と研究を行うことを理念としています。幅広く人文学の諸分野について学修できる良質な環境を整えることにより、次の4点に集約される基本的能力・態度・姿勢を有する人材の養成を目標にしています。

- ☐ 人間、社会、文化に関わる諸問題に多角的・分析的にアプローチを試み、主体的に取り組むことができる。
- ☐ 社会のなりたちとその歴史を深く理解し、人類が生み出した文化に敬意を持ち、その価値を後世に正確に伝えることができる。
- ☐ 身近な課題の探究を通して、地域社会に貢献する。
- ☐ 異文化に対する理解を深め、調和ある国際社会の形成に貢献する。

こうした教育理念に基づき、人文学部では、しっかりとした基礎学力と旺盛な学習意欲をもつ人、豊かな感性と強い関心をもって学習に取り組む人、そして人間・社会・文化に関わる諸問題に関心のある人の入学を望みます。

カリキュラムのポイント

1. 1学科制による体系的&横断的な学び

人文学部のカリキュラムは、教養教育と専門教育の連携によって幅広い教養と確かな専門知識を涵養し、人文的実践知を育むことを目指しています。3つの主専攻プログラムの下に多様な専門分野が用意されていますが、それぞれの専門分野について体系的な学習の道すじが工夫されていると共に、先端的な内容を紹介する講義も充実しています。同時に、1学科制であることを活かし、人文科学の諸分野を横断的に履修しながら卒業に必要な単位を取得することができるようにもなっています。

2. 4年一貫の演習科目で課題探求・解決力を育成

演習科目は学生のプレゼンテーションやディスカッションを重視する授業ですが、一人一人の学生が存分に力を発揮できるよう受講者数その他について丁寧に配慮し、きめ細やかな指導を行うことにより、課題を探求し解決する能力を含む「人間力」の育成に力を注いでいます。

3. 英語・外国語科目の充実

初修外国語(いわゆる第二外国語)では、日本人教員とネイティブ教員による週3〜4コマのインテンシブ授業により、「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能のバランスに配慮して、総合的な運用能力を1年間で涵養します。英語・初修外国語ともに、中級・上級科目が選択科目として用意されているので4年間かけてハイレベルな語学力を手に入れることも可能です。古典語科目も開講されています。

4. 表現プロジェクト演習などによる活動成果の発信

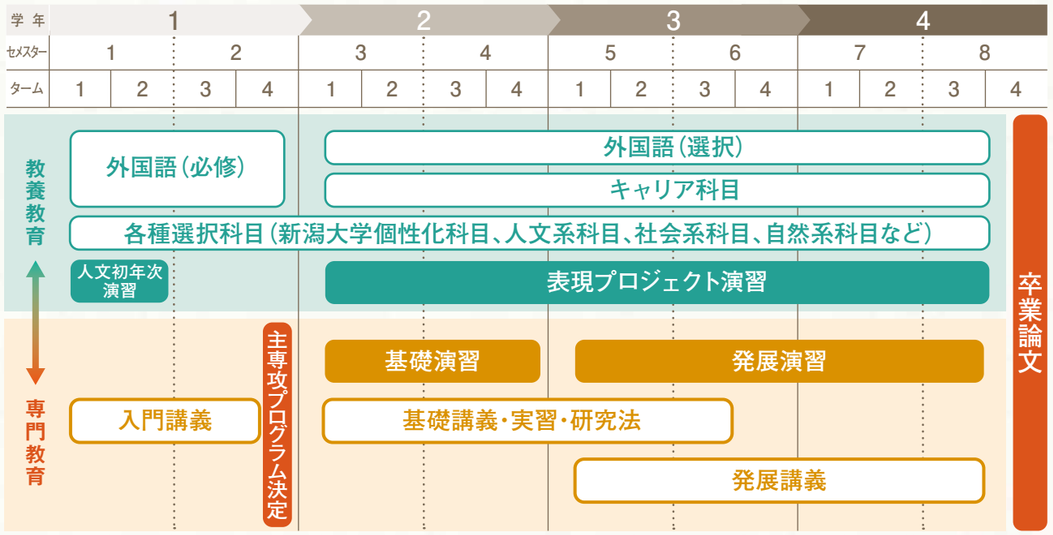
学生の主体的な取り組みと実践によるアクティブ・ラーニングも大きな学習効果を上げています。たとえば表現プロジェクト演習では、学生が協同して創造的な活動を行い、その成果を地域社会に向けて積極的に発信します。文学や映像作品の製作・発表、地域の民俗芸能への参加など、これまでの人文学部の枠組みを超える先駆的内容を展開し、国内外の教育関係者からも高い評価を受けています。

5. きめ細かい教育体制―初年次教育、キャリア科目

これらの豊かな学びは、学年に応じたきめ細かい教育体制により実現されています。1年次には人文入門や初年次演習などの初年次教育が用意されており、大学での高度な学修へとよりスムーズに移行できるようになっています。キャリア科目では、様々な業界の現場で活躍する方々から直に話を聴くことができ、卒業後の人生設計や就職試験について具体的に考えることができます。

カリキュラム内容

人文学部のカリキュラムは、「教養教育に関する授業科目」と「専門教育に関する授業科目」に大きく分かれています。学生の皆さんが専門的な内容を深く学べると同時に、これからの社会で活躍するための不可欠な技能を身につけられるように、多彩な授業内容が用意されています。人文学部では特に、少人数制の演習科目を重視しています。人文初年次演習(1年次)、基礎演習(2年次)、発展演習(3・4年次)、表現プロジェクト演習(2〜4年次)と、4年間継続して演習科目で学べることが、人文学部の最大の魅力の一つです。



新潟大学では2学期4ターム制の導入により学事暦を柔軟化し、海外留学や長期学外学修等との両立を実現しています。

1年次(第1、第2セメスター)

外国語を集中的に学びます。**人文初年次演習**では、25名以下の少人数編成により大学での学習に必要なスキルを身につけます。**入門講義**では、人文学部の各専門分野への導入を行います。また第2タームには、人文諸科学の最先端を網羅する**人文系フロンティア**、短期集中英語プログラムiStepなど、**学内外の集中的な学修プログラム**等への参加が可能となっています。

2年次(第3、第4セメスター)

1年次末の希望調査にもとづいて、2年次から各**主専攻プログラム**に所属します。**基礎演習**では、各主専攻プログラムにおける基本的読解技術・分析能力を養います。**基礎講義・実習**では、各専門分野の基礎を講義形式で理解し、実習を通して体得します。2年次以降、**キャリア科目**や**表現プロジェクト演習**の履修が可能になります。

3・4年次(第5〜8セメスター)

発展講義・実習では、専門性の高い最先端の内容を主として講義形式により理解します。**発展演習**では、原典・原資料の解読、資料・データの分析・解析、プレゼンテーションや討論を通して、自らの研究テーマを深めていきます。人文学部4年間の成果を、**卒業論文**として結実させます。

取得可能な資格

■ 教員免許	中学校、高等学校(社会、地理歴史、公民、国語、英語、フランス語、ロシア語、中国語、情報)の教諭一種免許が取得できます。所定の教職関係科目、教科専門科目の単位が必要です。
■ 学芸員	博物館や美術館の専門職員になるために必要な資格です。博物館概論・博物館実習などの所定の科目の単位が必要です。
■ 社会調査士	社会調査に関する基礎的な知識・技能、相応の応用力と倫理観を修得した者に認定される資格です。社会学・社会調査関係の所定の科目の単位が必要です。
■ 公認心理師(受験資格)	保健医療、福祉、教育などの分野において心理に関する支援や相談を行うための資格です。所定の科目の単位を取得して卒業し、さらに大学院または実務経験を経て、公認心理師試験の受験資格が得られます。

心理・人間学

Psychology and Human Studies

主専攻プログラム

- 心理学
- 芸術学
- 哲学
- 倫理学
- 宗教思想史

ひとは何を思い、生きるのか？ 人間という謎にいどむ

私たちにとって、人間という存在ほど不思議なものはありません。ひとの心はどのように働き、何を生み出すのでしょうか。このプログラムでは、実験や調査によって心のしくみを実証的に解明したり、人の心が作り出してきた思想的文献や古今の芸術作品を読み解いたりすることで、人間の謎に迫ります。

心理・人間学プログラム

心理・人間学プログラムは、人間とその心の解明をめざして、心理学と人間学の分野を学ぶプログラムです。

人間の行動やその心の働きをあつかう心理学分野では、実験や調査などの実証的方法によってこれらの問題にアプローチします。心理学実験や調査に関わる基本的技能を身につけるとともに、知覚・認知、記憶・学習、感情・行動、性格、対人関係や集団の心理、心理学の応用など、幅広い領域にわたる心理学の知識の習得を目指します。

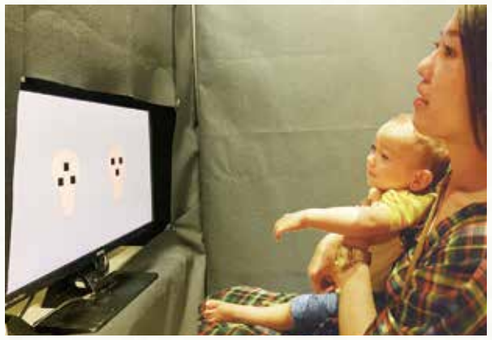
人間学分野には、哲学・西洋哲学史、倫理学、宗教思想史、芸術学の学問領域があります。人間の心（精神）は、日常的な言語活動から哲学的な思考、芸術の探究にいたるまで、そして道徳的な善悪の判断から宗教的な信仰にいたるまで、じつに多様な精神的所産を生み出してきました。人間学分野では、主として外国語や古典語で書かれた原典文献の読解を通して、これら哲学、宗教、科学、芸術などの人間の知的な営みの原理を解き明かし、人間性について理解を深めていきます。

このプログラムは、人間が直面する様々な課題に対して、人間についての深い理解に裏づけられた科学的分析と思考ができるような人材の育成をめざします。

心理・人間学プログラムで学べること

- 人間とは何か？
- 人間の認知のメカニズムを探る
- 学習と記憶のしくみを知る
- 集団の中の心の動き
- 美術作品を通じて人間性を考える
- 子どもの心の発達を知る
- 欲求の心理を探る
- ひとはなぜ誤るのか？
- 哲学的に思考し、議論する
- 造形芸術の歴史を学ぶ
- 人類の思想的遺産を読む
- 宗教を思想的に理解する
- 科学的な方法論とは何か？
- 哲学や思想の歴史を学ぶ
- 近現代の美術と写真
- 生命と環境の倫理学へ
- 古典詩学の文化史を学ぶ
- 王朝の言語芸術を読み解く
- 古典語（ラテン語など）を学ぶ
- 現代の視覚文化

教員からのメッセージ



人の心を科学する

小林　恵 准教授　KOBAYASHI Megumi

「心理学」という言葉を聞いて、皆さんはどんなことをイメージしますか？　カウンセリングとか心のケア、でしょうか？　例に挙げたような分野は心理学の中の一つのサブフィールドに過ぎません。私たちが日常的に何気なく行っている「見る」「聞く」に代表される知覚や、物事を思考、記憶、感情を抱くことなど、ありとあらゆる事象が心理学で研究される対象です。

人は太古の昔から「心」に興味を持っていました。遡れば、ソクラテスやプラトン、アリストテレス、デカルトなど古代ギリシャの哲学者たちが、心はどこにあるのか、どんな機能を持っているのかを考えていたのです。科学としての心理学が誕生したのは1800年代後半のことです。近代の心理学では、人の観察可能な反応・行動（キーを押す、アンケートに回答する、など）から、心理現象（知覚や思考、記憶、感情など）を推測することで、わたしたちの心はどのような働きをしているのか、人間とは何かという大きな問いに挑んでいます。私たちが用いているのは、実験を用いた自然科学的な手法です。実験によって得られた数値を、統計を使って解釈、理解していきます。

人の心の成り立ちを調べるために、おとなの人以外を対象に研究することもあります。例えば、人の赤ちゃんを対象とした研究です。自分の周りの世界を見たり、聞いたり、感じたりする心の働きは、生まれてまもなくの赤ちゃんもおとなと同じなのでしょうか？誰しもが赤ちゃん時代を過ごしていますが、その頃の記憶はなく、どのような世界を見ていたのかを知る人はいません。しかし、写真のように、色々な画像を実験で見せ赤ちゃんの行動（注視する時間など）を計測することで、赤ちゃんの心の機能や発達を調べることができます。

このように、心理学はさまざまな手法を用いて、人の心の解明に挑んでいます。ぜひ皆さんもその一員になってもらえたら嬉しく思います。

問い

阿部　ふく子 准教授　ABE Fukuko

哲学の出発点は、「問うこと」です。次に、「応える」ことです。そして「新たに再び問い」、それをやめないことです。自問自答もありなのですが、ここではわたしから、哲学に関心のある方へ、次の問いを投げかけてみたいと思います。哲学に特に関心のない方でも、暇な時間があれば考えてみてください（暇は哲学の切実な条件なのです）。

Q. すべての学問の名称のなかで、「哲学」だけが異色の名付け方になっています。他の学問は、「○○学」の○○部分で研究対象を明確に表しているのに（例：生物学）、なぜ哲学だけが謎めいた名称になっているのでしょうか？
Q. 哲学は「役に立つ」と思いますか？「役に立たない」と思いますか？その理由をどう説明しますか？
Q. 人文学の「人文」とは何を意味していると思いますか？
Q. 「幸福とは何か」を卒業論文のテーマに掲げていた哲学専攻の学生が、いつのまにか「無」の研究をしていました。なぜだと思いますか？
Q. ニーチェはなぜ人気なのでしょう？
Q. もし、死刑になったソクラテスが「あの世」から哲学の現在をみているとしたら、どんなことを言うと想像しますか？
Q. 「知行合一」という言葉がありますが、哲学者の場合、思考と行動は合致させるべきでしょうか？
Q. 哲学は何歳からできると思いますか？
Q. 日本の大学で「哲学」というと、西洋哲学が主流になっているのはなぜなのでしょうか？（豆知識ですが新潟大学人文学部にはかつて東洋哲学の研究室もありました。）
Q. 「哲学者」とは何者なのでしょうか？
Q. 「哲学は難しい」「哲学書は難しい」と言われることがありますが、「難しさ」の原因を挙げるなら何があると思いますか？
Q. 哲学を研究するのに語学が必要なのは、なぜでしょうか？
Q. 高校までの授業に出てくる哲学と、大学の哲学とではどんな違いがあると思いますか？

教員紹介

青柳 かおる（アオヤギ カオル） AOYAGI Kaoru

教授 宗教学・イスラーム思想史

ガザーリー（1111年没）を中心に、アラビア語の文献を読みながら、古典時代のイスラーム思想史、とくにスーフィズム（神秘主義）を研究しています。ガザーリーの「婚姻作法の書」を翻訳し、婚姻、女性、セクシュアリティーについてスーフィズムの視点から研究してきました。最近は、現代のイスラーム法学者の文献も分析し、古典時代から現代までのイスラームの女性問題および生命倫理の変遷を明らかにしたいと考えています。

猪俣 賢司（イノマタ ケンジ） INOMATA Kenji

准教授 比較文化史

小さな真珠のような一首の歌の中に繰り広げられる煌めくような妖艶な世界や水底の月夜、それを可能とする巧みな修辞技法と美しい韻律、どのようにして「古今和歌集」でそれが実現されたのであろうか。比較詩学・比較文化史の視点から、西洋の古典詩学・ルネサンス詩学や中国の六朝詩学と日本の王朝歌学を比較研究してきました。ダンテ、ペトラルカ、謡曲からゴジラ映画まで、その表現原理と表現史を辿りながらも、屏風歌人である紀貫之の「むすぶ手」が映し出す泡沫の面影に心が慰められます。

岡嶋 隆佑（オカジマ リュウスケ） OKAJIMA Ryusuke

准教授 哲学・現代思想

ベルクソンを中心としたフランス現代哲学が専門です。これまでは、時間や意識、知覚、記憶といったテーマを中心に研究をしてきました。今後は、差別感情やビデオ・ゲームの哲学などより応用的な主題にも取り組んでいく予定です。学生の皆さんには、哲学・倫理学の思想に触れることによって、与えられた課題をこなすのではなく、自ら問いを立てることができる力を養って欲しいと考えています。

小林 恵（コバヤシ　メグミ） KOBAYASHI Megumi

准教授 発達心理学

視覚認知、特に顔や身体からの他者認識の発達過程が主要な研究テーマです。生後数ヶ月の赤ちゃんから大学生を対象としており、視覚認知のさまざまな能力がいつ獲得されるのか、大人とどのように違うのかを研究しています。近年では学内外の共同研究者と協力して、発達障害児や早産児の視覚認知の解明にも取り組んでいます。私たちが何気なく見ている日常の世界を、赤ちゃんの目を通して見つめ直せるのがこの分野の魅力です。

中嶋 豊（ナカジマ ユタカ） NAKAJIMA Yutaka

准教授 応用・実験心理学

主に眼の錯覚（錯視）について研究しています。錯視は見て面白いだけではなく、人間がどのように世界を知覚しているかを知る重要な手がかりなのです。また、今後身近になる技術（自動運転、拡張現実）に対して人間の知覚特性を最大限に生かすための応用研究も行なっています。このように研究対象は知覚に関する疑問から社会の問題まで幅広いです。心理学実験を通して、こうした疑問や問題に一緒に取り組んでいきましょう。

福島 治（フクシマ オサム） FUKUSHIMA Osamu

教授 社会心理学

講義では、自尊心や魅力、恋愛や集団心理などが話題の中心です。身近な事柄なので、自らの経験と関連させて聴く学生さんも多いようです。人格心理学も教えています。こちらでは、性格についての様々な理論を話しています。専門家の考える性格は、一筋縄ではとらえきれませんが、そこから考え方の多様性を学んでほしいと思っています。研究テーマは自己概念の変動性です。入学して新しい「自己」を見つけましょう。

阿部 ふく子（アベ フクコ） ABE Fukuko

准教授 哲学・西洋近代哲学

デカルトの「我思う、ゆえに我あり」に始まる西洋近代哲学の根源的なテーマである「人が考えるとはどういうことか」について探究しています。古来より人間は理性的動物であると言われますが、その理性の能力の可能性や限界はどこにあるのか —— などと理性の謎に迫ってみるのは、人間が自分自身を知る思考の旅のようでもあり面白いです。また哲学教育にも関心があり、多様な立場の人たちと身近な話題で哲学対話を実践したりしています。

太田 紘史（オオタ コウジ） OTA Koji

准教授 認知哲学

心と行動をめぐる現代哲学の基礎的問題、とくに物理主義、意識経験、自由意志、道徳心理、道徳認識にまつわる問題を研究しています。論証とその分析を中心とする理論的研究を行っていますが、最近では実験心理学者とともに道徳的思考のメカニズムをターゲットとする経験的研究も行っています。講義やゼミでは参加者の主体的な学習と発表が重要になりますので、意欲あふれる学生さんをお待ちしています。

甲斐 義明（カイ ヨシアキ） KAI Yoshiaki

准教授 芸術表現論

専攻は近現代美術史で、その中でも特に、写真の歴史について研究を行ってきました。授業では日本写真史、20世紀美術史、ドキュメンタリー映画、イメージ論、絵本など視覚文化に関する幅広いトピックを取り上げています。少人数で行われる演習形式の授業では、他者が作った画像の分析方法を学ぶだけでなく、デジタルカメラや画像処理ソフトの使用を通して、「手を動かして」イメージについて考える機会を作ることを心掛けています。

田中 咲子（タナカ エミコ） TANAKA Emiko

教授 西洋美術史

専門は西洋美術史です。美術史とは、必ずしも美術の歴史そのものを研究するとは限らず、美術作品を手掛かりに、当時の社会や人間の諸相の解明を目指す学問でもあります。私自身の研究領域は古代ギリシア美術です。当時の墓碑浮き彫りをはじめとする葬礼美術や、壺絵に描かれたギリシア神話、スポーツの図像などを通じて、当時の人々の価値観や規範概念について考えています。授業では西洋古代から現代に至る幅広い作品を扱います。

新美 亮輔（ニイミ リョウスケ） NIIMI Ryosuke

准教授 認知心理学

認知心理学の研究をしています。主に視覚認知、周囲の物や状況を見て認識する物体認識・情景認識といった人間の知覚・認知の根幹となるメカニズムを調べています。たとえば、見る角度や表情や髪型が違っても同じ人の顔を同じ人と認識できるのはなぜでしょう？　みんなに好まれる美しい見た目の物とそうでない物があるのはどうしてでしょうか？　人は目のみによって見るにあらず！　「見る」ことの奥深さと楽しさを追究してみませんか。

横山 仁史（ヨコヤマ サトシ） YOKOYAMA Satoshi

助教 神経心理学

うつや不安といった様々なこころの状態を作り出す脳のしくみを調べています。脳がどのようにそれらの気分を引き起こし、自ら調節しているのかといった基礎的な理解から、どのような場合にそれがうまく働かなるのか、治療を通して脳がどのように回復していくのかといった応用的な取り組みも行っています。人の精神的健康のメカニズムを脳から解明していく面白さを一緒に探しに行きましょう。

学生の声

「型」に当てはめない

野村 香実 宗教思想史３年

私は宗教、特にイスラム教に（最近は仏教にも）関心を持ち学んでいます。一口にイスラム教と言っても、様々な分派があり、また聖典の解釈も宗派や個人により異なり、「イスラム教徒だから、この人はこう」なんて型に当てはめることは出来ないのです。同じ本を読んでも、それぞれ抱く読書感想が違うように、聖典を読んだ人の数だけ解釈があり、すべてを型に当てはめることなんてできないのだと実感できるのも宗教を学ぶ面白さであると感じています。宗教学に限らず、人間学ではきっとあなたの中にある、固定的な価値観を壊すような出会いがあるかと思います。日常に溢れる「型」を打ち砕く、刺激を求めるそこの貴方、ぜひ人間学で共に学んでみませんか？

美術への誘い

鈴木 小雪 芸術学４年

私は、ある作品が、いつどこで、どんな人が作って、何をどう表していて、なぜ製作されたのかを勉強しています。そこには当時の文化、歴史、文学、哲学、宗教などの多様な学問が関わってくるのが面白いところです。百聞は一見にしかずですから、テレビの美術特番や入門書（東京美術の『もっと知りたい』シリーズは愛読書です）、実際に美術館に行くのをおすすめします。何かに行き詰ったときに、作品や十人十色な画家の人生が励ましになることもあります。いつもと違う世界が覗きたくなったら、美術に触れてみてください。

心を「読もうとする」学問

両川 彩奈 心理学３年

好きな人の心の中が読めたらなぁ。なんて思いませんか？ 心理学は心の中を「読もうとする」学問です。何を考えているのか毎日アンケートを取りましょうか。積極的と控えめのどちらが好きなのか2パターン試して反応を見てみましょうか。今誰が好きなのか確かめるためにクラスメイトの顔写真を並べて提示してみましょうか。結果はネガティブな感情のときに人間関係について考えることが多く、積極性のある人に好意を持つようです。あなたではない他の人の写真に視線が長くいくようですね、脈拍も速くなっていました。この人に特別な感情があるようです。ということは、弱っている時に積極的に仕掛ければ今好きな人よりもあなたのことを見てくれる可能性が高まります。…と、こんな感じに。ここまでで面白そう!と感じていたらあなたはもう心理学の虜です。ぜひ心理学分野へ！

社会文化学
Society And Culture

主専攻プログラム

- 社会学
- 考古学
- 文化人類学
- 人文地理学
- 民俗学
- 芸能論
- 日本史
- アジア史
- 西洋史
- メディア論

世界の多様性に触れ、文化を読み解く

ますます多様化する現代社会――その理解は、歴史的・文化的・社会的背景を正しく捉えることに始まります。各種の資料の調査、あるいは現地調査やメディア実践を通じて、文化の生き生きとした姿に触れるとともに、深く理解する力を身につけましょう。

社会文化学プログラム

社会文化学主専攻プログラムは、人間の社会文化的な営みを、歴史学、社会・地域文化学、メディア論の各領域を通じて学びます。履修にあたっては、一つの領域を選んで深く学ぶとともに、複数の領域を関連・総合させて学習を進めます。

歴史学では、歴史をテーマとして、人々の営みを専門的に学びます。歴史を明らかにするための資料・史料は、古文書や碑文、木簡、絵画、写真や地図、統計など、じつに様々な形をとって私たちの前に蓄積されています。それぞれのテーマに合った資料・史料の性質を理解し、読み解くスキルを身につけます。

社会・地域文化学は、社会学、文化人類学、民俗学、考古学、人文地理学、芸能論の6つの学問分野があり、いずれもフィールドワーク=現地調査を通して学びます。直接現地に足を運び、自らの身体を使い、五感を働かせて調査し考えることで、人々が築いてきた世界を実感し、人間社会の多様性の理解を深めます。

メディア論では、TV、新聞、ラジオ、コンピュータ、スマートフォン、インターネット、ソーシャル・メディアなど、私たちの身の回りにあふれる様々なメディアと、それが伝える表現や文化を捉え直し、多様なメディア実践――取材活動や作品制作を通じて、現代社会で生きることのリアリティを探求していきます。

社会文化学プログラムで学べること

- 現代社会における市民運動
- ジェンダーの社会学
- 学習と教育の人類学
- 絵図を考える・絵図から考える
- 日本の歌舞音曲
- 民俗文化としての性
- 新潟の暮らしと伝承
- 日本とアジアの考古学と文化
- 戦国期の地域と権力構造
- 日本近世の地域と交流
- 20世紀日本社会の歴史を多角的に考える
- 古代エジプト人とフェニキア人の歴史
- 西洋美術史
- 現代アメリカの民主主義思想
- 中国の国家と社会の変化
- 日本とアジアの関係史
- 朝鮮家族史研究
- インターネット・モバイル社会
- 今日の映像文化
- ポピュラー音楽研究

教員からのメッセージ

歴史学とはどんな学問か

中村　元 准教授　NAKAMURA Moto

この文章に目をとめた方の中には、大学で歴史を学ぼうと思っておられる方もいるかもしれません。大学で学ぶ歴史学とはどんな学問か、私なりの理解をお示ししたいと思います。

ある辞書は「歴史」の説明の一つとして、「過去の人間生活に起こった事象の変遷・発展の経過。また、その、ある観点から秩序づけられた記述」と記しています（『日本国語大辞典』）。ここに記された通り、「歴史」には「過去の人間生活に起こった事象」やその「変遷・発展」という「あったこと」としての側面と、そうした事象に関する「ある観点から秩序づけられた記述」という「書かれたこと」、絵画や口承などを視野に入れればもう少し広く「認識されたこと」としての側面があるといえます。私たちは「あったこと」を直接知覚することは出来ないので、私たちが知る「歴史」とは、多くの場合「認識されたこと」になります。

では「認識されたこと」としての「歴史」は、どのように出来ているでしょうか。ある歴史家は、それは「過去の痕跡」を手がかりとして、そのあいだの「意味連関を言語を媒体として表現する」行為に基づくと説明しています（二宮宏之「歴史学の作法」『歴史を問う4　歴史はいかに書かれるか』）。

歴史学という学問を、上記の説明を参考に整理してみます。歴史学ではまず、既にある「認識されたこと」としての「歴史」が、いかなる「過去の痕跡」すなわち歴史資料に依拠しているか、そのあいだにいかなる「意味連関」が結ばれているか、十分に吟味し把握するトレーニングを行います。その上で、既知の「過去の痕跡」の理解を改めたり、新たな「過去の痕跡」を発見したり、それらの間の「意味連関」を再考したりして、「歴史」をいわば更新することを目指して研究します。抽象的な説明になりましたが、たとえば写真のような新発見の「過去の痕跡」に出会い、「歴史」を更新し得る感触をもつ時は実に嬉しいものです。未来の歴史学の担い手をお待ちしています。

自由を求めて

杉原　名穂子 准教授　SUGIHARA Nahoko

皆さんはどのように専攻分野を選んでいるでしょうか。私は大学に入ってから専門とする分野を選びました。私は何に興味があるのだろう、何を追究したいのだろうと考え、結果、社会学を選びましたが、それは大学1年生だった当時、「生き難さ」のようなものを感じ、その問題を考えたいと思ったからです。当時私が感じていた生き難さとは、人が自由に生きられないこと、自分を抑えつける何か力があることであり、その正体は社会ではないかと考えたのです。

専門分野に進み、E. デュルケムという人の著書をまず手にとりました。その冒頭には次のような記載がありました。社会的なものとは次の二つの性格をもつ、すなわち個人に外在すること、そして個人を拘束すること・・・。

私が感じていた生き難さの正体はやっぱり社会だった。人を外側から縛り付けて自由にさせてくれないものが社会なのだ。私の感覚は正しかったのだ、と思いました。

学生時代にジェンダーや差別、それに関する人々の意識の問題を研究し、卒業後大学で働くようになりました。そしてさまざまな経験をへる中でふと気づきました。あれ?社会って人を拘束するだけじゃないんじゃない?逆に人を自由にしてくれるんじゃない?

私は自分が一人でできる仕事なんてほんとに微々たるものだと痛感させられたのです。いつも周囲の人に助けられて仕事をしました。人々は私に多くの情報を与えてくれました。行き詰まった時には相談にのってくれました。調査の際には相手の方が快く協力してくれました。多くの人の協力のおかげで、私の行動の幅は大きく広がりました。つまり自由を獲得していたのです。

社会とは不思議なものです。常に良い面と悪い面があります。それらの仕組みを研究するのは難しいことですが、生きる上で大切なことを教えてくれる学問だと思います。

教員からのメッセージ

「好」古から「考」古へ

白石　典之 教授　SHIRAISHI　Noriyuki

ネット上で「かわいい土偶」「ハニワ女子」「古墳萌え」…といった文字を目にしました。縄文時代の土偶や古墳時代の埴輪に安らぎを求めたり、古墳や戦国時代の城跡にロマンを感じたりする人が、近ごろ増えているそうです。たしかに、土偶や埴輪の表情には癒されますよね。どんなかたちにせよ、歴史に親しむのは、とても良いことだと思います。みなさんの中に、土偶や埴輪などを見て、思わず胸がときめいてしまう人がいたら、新潟大学で考古学を学んでみませんか。

考古学と聞くと、王侯貴族の墓を発掘したら金銀財宝が見つかった…といったような大発見をイメージする人もいるでしょう。しかし、じっさいには、名もなき人々の住居や墓、または土器や石器の小さな破片が、考古学の研究対象です（ちなみに恐竜は違います）。それらを分析して得られた成果を積み重ねて、過去の人間の営みを復元するのが、私たち考古学者の仕事です。

考古学では、みずからの知識と照らし合わせたり、他人や他の分野の成果を参考にしたりして、過去の人々のありさまに考えを巡らすことが重要になります。学問ですから、堅苦しい部分があるのも事実です。でも、前方後円墳を見て、なぜこんな形をしているのだろうとか、土偶を見て、何のために使ったのだろうと考えれば、それはもう、考古学に足を踏み入れたのと同じです。意外に身近で親しみやすい学問なのです。

考古学において、土偶や古墳が好き…という気持ちはもちろん大切ですが、それ以上に必要なのは、考えることです。だから、「古（いにしえ）」を「考」えると書くのです。「好」古を「考」古へと変えることで、教科書に載っていない新しい歴史が見えてくるはずです。「かわいい」や「萌え」と違った心揺さぶる体験が、あなたを待っています。

宗教美術の魅力

細田　あや子 教授　HOSODA Ayako

何かを前に手をあわせて祈りを捧げたことはありますか。はっきりと祈りとはいえなくとも何かを願う、思いを込める、ということはないでしょうか。宗教なんて信じないという人でも、社寺を訪れるとまわりにつられてなんとなく手をあわせたり、何か困ったことが起こったとき、その状況が改善するよう心のなかで助けを求めることも、ときにはあると思います。

太古の時代から人は神、超越者という存在に対し祈り、儀礼を捧げてきました。それは、超越的存在から何か応答を求めているからだと考えられます。人間を越えたより大きな存在、超自然的存在者などとコミュニケーションをはかろうとしてきたのです。その際、神の像といった「もの」が作られ用いられてきたことに注目しています。

たとえば1400年頃、現在のポーランドあたりで制作された聖母子像のなかに、マリアのおなかが開くものがあります（上記図版、パリ、クリュニー美術館蔵、高さ44.5cm）。体内にキリスト教の教義である三位一体が造形化されています。当時の資料によると、このような聖母子像は祝祭日ごとに開かれ用いられていたことがわかります。とくに受難節には像のなかの三位一体像から十字架上のキリストの部分が取り外され、信者たちはそれに口づけをして祈りを捧げていたようです。

現在の私たちからすると、聖母さまのおなかを開けてのぞき込むなんて恐れ多いですが、中世の人たちはマリアの体内を開閉したり、なかの像を手に取って抱きしめたりしながら、神、またマリアに対し祈り、救いや平安を希求していたのです。そのような場合、これらの造形物は単なるものではなく、命が宿った生きたものととらえられていたのではないでしょうか。「もの」には何か目に見えない力がこもっているのではないか、それはなぜか、といったことを考えています。

ヨーロッパの宗教芸術など歴史文化を中心として異文化の理解を深めていますが、それにより自身の文化も新しい視点で考える大切さを授業でも伝えてゆきたいと思っています。

教員紹介

青木　要祐（アオキ ヨウスケ）　AOKI Yosuke

助教　考古学

子供のころから歴史に興味がありましたが、考古学では文献ではなくモノが対象となる、と高校生の頃に知りました。以来、考古学を学び、約2万年前の後期旧石器時代を中心として、過去の人類が作ったり使ったりしたモノ（石器）をもとに当時の生活を研究しています。石器の顕微鏡観察や科学分析など、一見すると人文学部とは思えないような手法が関わるのも考古学の魅力の一つです。実習ではフィールドワークの一環として発掘調査も実施しています。

伊藤　嘉高（イトウ ヒロタカ）　ITO Hirotaka

准教授　地域社会学

「自己責任」の名の下、格差や孤立が広がる今日において、私たちが「共生」し、助け合うことは困難になる一方です。人びとが集まれば自然に社会（助け合いの単位）が生まれるわけではありません。むしろ、課題を共有し、課題をともに解決する動きから共生の意識が生まれます。そうした共生の意識を生み出す場としての地域社会の可能性を追究するために、私は、防犯、防災、医療などのさまざまな分野で調査研究を行っています。

加賀谷　真梨（カガヤ マリ）　KAGAYA Mari

准教授　民俗学・博物館学

民俗学の立場から、沖縄県八重山諸島で研究を行ってきました。なぜある島では現在まで数多くの祭りが簡略化されることなく執り行われているのだろう。別の島では体の弱い子どもに「親をつけた」ようだけど、それにはどのような意味があったのだろう。それぞれの島で出会う“驚き”と“疑問”を手がかりに、島社会の仕組みと人々の行為実践の背景にある考えを明らかにすべく研究を行っています。

片桐　昭彦（カタギリ アキヒコ）　KATAGIRI Akihiko

准教授　日本中世史

日本中世史のなかでも戦国時代の権力と文書について研究しています。具体的には、上杉謙信や武田信玄などの印判状・感状・制札がどのように発給され機能したのか、またその意義を探ることにより地域権力の構造や特質を考えています。授業では、文書に限らず日記や年代記、金石文など様々な中世の文献史料を読み解くとともに、考古・地理・民俗学などの成果に学びフィールドワークも取り入れていこうと思っています。

古賀　豊（コガ ユタカ）　KOGA Yutaka

准教授　メディア論

メディア論を専門としています。近代以降の社会は、印刷、写真、映画、TV、コンピュータ、インターネットといった様々なメディアの登場により、それまでの社会と比べて大きな変容を遂げています。今日、その変容の速度はますます増加し、我々の生活のあり方そのものを変えてしまうかのようです。このような時代は、ある意味では、たいへん興味深く、面白いものです。現代という時代の意味を、皆さんといっしょに考えていきたいと思います。

白石　典之（シライシ ノリユキ）　SHIRAISHI Noriyuki

教授　考古学

今から800年ほど前、ユーラシア大陸の東西にまたがる巨大国家となったモンゴル帝国と、その建国者チンギス・ハンについて考古学から研究しています。なぜ強大な国が誕生したのか、チンギス・ハンとはどういう人物か、いまだ謎に包まれています。それは文字資料（史料）にウソや誇張が多いからです。そこで私は、彼の宮殿跡や武器工房跡を発掘し、出土した遺構や遺物など物質資料（モノ）から、その謎に実証的に迫っています。

杉原　名穂子（スギハラ ナホコ）　SUGIHARA Nahoko

准教授　ジェンダー論

家族社会学、教育社会学、ジェンダー論を専門としています。女性と男性でどのような違いがあるのか、進学先や就職先の決定、子どもの教育に家族が及ぼす影響について研究しています。家族のあり方や子どもの進路選択は地域によっても違いますが、新潟県と首都圏との違いに主に焦点をあてて調査を行っています。近年、格差社会ということが話題になっていますが、子どもや親が抱く希望や意欲のあり方についても注目しています。

園田　浩司（ソノダ コウジ）　SONODA Koji

准教授　文化人類学

アフリカ熱帯雨林に暮らすカメルーン狩猟採集社会バカBakaの人々を対象に、フィールドワークを行ってきました。狩猟採集社会は、老若男女問わず、みなが平等で対等な社会だと言われます。バカの子どもたちは、日常生活を通してそれをどのようにして学んでいるのか。それが私の問いです。文化人類学は、相手の視点に立って世界を捉えなおす学問です。ぜひ、世界の人々の様々な生き方に触れてみてください。

高橋　秀樹（タカハシ ヒデキ）　TAKAHASHI Hideki

教授　西洋古代史・西洋古典学

西洋の古代や中世を研究しています。今年の授業で取り上げているのは、古代エジプトの歴史・文化・神話、古代ギリシアの歴史・文化・神話、中世の英雄伝説（アーサー王、ローラン、エル・シッド他）、ケルト文化などです。古い時代の歴史や文化は、まだまだ謎が多く、新しい発見や研究方法によってそれまでの研究が大きく変わることがある、エキサイティングな分野です。この面白さを多くの学生諸君に伝えたいと願っています。

高橋　康浩（タカハシ ヤスヒロ）　TAKAHASHI Yasuhiro

准教授　西欧政治思想史

専門は西欧政治思想史、アメリカ思想史。キリスト教神学思想史にも関心があり、アメリカにおける宗教と政治の関係、現代民主主義の政治理論を中心にして研究をしています。演習においては、アメリカ史を舞台に上記のテーマや、戦争と平和といった政治外交史上のテーマ、人種問題などのアメリカ国内のテーマについても考察の対象にしていきたいと考えています。

中村　隆志（ナカムラ タカシ）　NAKAMURA Takashi

教授　情報メディア論

今、ケータイによる人々のコミュニケーションと、ケータイが作り出す様々な文化と広告について研究しています。多くの人がケータイを持っていますが、その歴史はまだ浅く、逆に言えば、我々の日常生活や人とのつながり方を今まで以上に変えていく可能性を秘めています。最も身近にあるケータイを通して、広い世界や社会、文化を研究・考察していく道が皆さんの前に広がっているのです。共に進めることを願っています。

中村　元（ナカムラ モト）　NAKAMURA Moto

准教授　日本近現代史

日本近現代史の中でも特に都市史を専門としています。これまでは主として20世紀前半期の大都市周辺の都市における空間的・政治的・社会的変化の相互関係に注目し、近代日本における都市形成と「デモクラシー」の関係を研究してきました。今後は時間的には20世紀後半期、空間的には都市周辺の農村にも視野を広げつつ、人々の社会におけるリアルな在り方に即して日本近現代史の全体像を見通す方法について、皆さんと考えていきたいと思っています。

教員紹介

中本 真人（ナカモト マサト） NAKAMOTO Masato

准教授 芸能論

日本の古代から中世にかけての芸能を中心に研究しています。古代から近世までの貴族たちは、和歌や書だけでなく、音楽や舞中心に芸能にも通じていることが求められていました。貴族たちの芸能は、具体的にどのようなものだったのでしょうか。また彼らは、誰から、どのような方法で芸能を学んだのでしょうか。絵画や彫刻、文学などとは異なり、過去の芸能は一切形に残りません。その形に残らない芸能について、過去の文献と現代の芸能実演の両方を調査することにより、具体的に明らかにしたいと試みています。

原 直史（ハラ ナオフミ） HARA Naofumi

教授 日本近世史

江戸時代の都市や商品流通を主な研究対象にしており、地域社会の構造と変容に大きな関心を持っています。「近世」という時代は日本列島において、ウェスタン・インパクト以前の伝統的な社会が最も成熟した時代であり、その時代を探ることは、私たちの現在と未来を考えるうえでとても重要な意味を持つと考えています。授業ではしたがって、こうした近世社会を多様な角度から検討しようと心がけています。

広川 佐保（ヒロカワ サホ） HIROKAWA Saho

准教授 中国近現代史

20世紀初頭の中国東北やモンゴル地域の歴史、そして日本とアジア関係史について研究しています。中国やモンゴル、台湾の史料館で史料を探索し、歴史の舞台を自らの足で歩くことに努めています。そうすることで史料と現在の人々の暮らしがつながり、今日的な問題を考えるきっかけにもなります。大学では近現代のアジア史関係の書籍や資料を通読していますが、教室を飛び出してフィールドを歩くことをすすめています。アジア近現代史には、まだ研究されていない分野が多く残されています。皆さんのオリジナルな研究や発見を期待しています。

細田 あや子（ホソダ アヤコ） HOSODA Ayako

教授 西洋中世史・西洋美術史

ヨーロッパ中世の文化史に関心を持ち、とくに美術作品とキリスト教文化との関係を探っています。生と死、天国と地獄、天使と悪魔、聖杯の謎など、怪しげなものにひかれ、それらがどのように表現されているのか考察中です。授業では、ロマネスクの素朴な聖母マリアさまの彫刻から、ゴシック期の大聖堂建築、ルネサンスの巨匠たちやフェルメールやレンブラント、さらに近現代の芸術家まで視野をひろげつつ、学生とともに美術史の面白さを学んでいます。

堀 健彦（ホリ タケヒコ） HORI Takehiko

教授 人文地理学

人文地理学の中でも、歴史的な側面を重視しながら地理事象を考察する歴史地理学が専門です。最近は、明治期に作製された地籍図という資料を使って、歴史的な景観を精緻に復原する作業を佐渡島で行っています。また、近世会津藩が作成した『新編会津風土記』に記されている地理情報についてもGISを活用して分析を進めています。細かな作業の積み重ねですが、それらが組み上がって全体像が徐々に見えてくるのが醍醐味です。

松井 克浩（マツイ カツヒロ） MATSUI Katsuhiro

教授 社会学理論・災害社会学

個人の自由を支えるような人と人とのつながりは、どうすれば可能になるのか。それを理論研究と地域研究の両面から考えています。理論の方は、M・ヴェーバーをもとに、権力や秩序、コミュニケーションを成り立たせるメカニズムについて研究しています。地域研究では、中越地震・中越沖地震の被災者・被災コミュニティを調査して、被災地の再生や災害に強い地域社会のあり方、災害ボランティアの役割などについて考えています。

村上 正和（ムラカミ マサカズ） MURAKAMI Masakazu

准教授 中国近世史

17世紀から19世紀にかけての中国の都市社会史・文化史を研究しています。特に伝統中国の人々が持っていた価値観や心性、社会の中で生き抜こうとしたその試行錯誤の軌跡をたどることに関心があります。授業では中国や台湾で調査した清代の文書史料のほか、絵画や小説、演劇・芸能作品も幅広く取り上げます。様々な史料に触れて自分の常識がゆらいでいく驚きと、中国について考えていく楽しさを皆さんと共有できればと思っています。

森 貴教（モリ タカノリ） MORI Takanori

准教授 考古学

専門は考古学で、朝鮮半島から日本海沿岸を主な対象地域として弥生時代とその並行期の研究をしています。稲作や鉄器の導入が当時の人々の暮らしや交流のあり方にどのような影響をもたらしたか、考察を深めています。最近は、弥生時代の終わり頃の高地性集落遺跡の発掘調査によって、『魏志』倭人伝に記された「倭国乱（わこくみだれる）」とは何かを追究しています。フィールドで、オリジナルな発見の喜びを伝えられたらと思います。

山内 民博（ヤマウチ タミヒロ） YAMAUCHI Tamihiro

教授 韓国・朝鮮史

韓国の田舎をまわりながら、朝鮮王朝時代の社会について研究しています。授業では、古代の新羅・高句麗・百済から現代の韓国・北朝鮮まで、家族や村落、国際関係など様々な面から朝鮮社会の歴史的性格を追求していきます。古くから中国・日本と密接な交流関係をもちつつ、独自の世界を形成してきた朝鮮半島の歴史を学ぶことは、新たな視点から東アジアや日本について考える契機にもなることでしょう。

学生の声

演劇と社会学　菅藤 駿介 社会学３年

社会学は社会に存在するあらゆる事象を調査、研究、解明できる学問です。一例を上げると私は大学で演劇研究部に所属していますが、この演劇という題材についても様々な観点から研究可能です。演目に内包された社会的背景や劇団内での人間関係については言うまでもなく、逆に、演劇の観点から私達の日常生活を研究することもできます。社会学には「役割演技」という言葉があります。私達は社会で生活する上で日々他者から何かしらの役割を期待されながら生きています。家族の中では子供として、学校では生徒として、部活では先輩や後輩として、アルバイト先ではアルバイターとしてというように私達は常に何かしらの役を演じながら生活しているとも言えます。つまり、演技によって社会の秩序が成り立っているのです。このように社会学は周囲のあらゆるものから研究の題材を決めることができます。そんな社会学をみなさんも一緒に学んでみませんか?

地理学を学ぶ　三浦 悠人 人文地理学４年

地理学は、歴史、文化、産業などありとあらゆるものについて地理的な観点から探究できる学問です。歴史的な街並みの形成過程から、飲食店などの立地展開、都市の再開発、アニメや漫画の「聖地巡礼」によるまちおこしまで、テーマは多岐に渡ります。また、教科書を読んで講義を受けることだけが地理学の勉強ではありません。フィールドワークで各地を実際に歩いてみることで、文献や資料では得られない新たな知見を得ることもできます。何気ない街の風景が、興味深い研究対象になる。そんな地理学を、皆さんも学んでみませんか?

メディアの裏側が見えてくる！　田村 優衣 メディア論３年

皆さんは大学生になって、こんなことを学んでみたい!という思いはありますか? 大学生になると、自分自身で自由に選択ができる分、何を専攻しようか迷うのではないかと思います。そんな中で、私は身近な存在であるメディアについて、もっと知ってみたいと思いました。実際の授業では、今まで見る側でしかなかったMVを制作する授業がありました。普段見る3分程に凝縮されているMVは、こんなにたくさんの時間と労力がかかっているのだと、それまで何気なく見ていたMVの捉え方が変化しました。また、皆さんが毎日のように目にする広告についても、その理論を学び探究することができます。メディア論は幅広い分野をカバーしているため、自分の興味があることを学びやすい分野だと思います。身近なメディアのことが少しでも気になったら、一緒にメディアを学んでその裏側を知ってみませんか。

歴史学を学ぶ楽しさ　清水 風夏 アジア史４年

高校まで学習してきた歴史と大学で学ぶ歴史学は大きく異なっています。なぜなら高校までの歴史は暗記科目ですが、大学では様々な史料を読み解き、過去の出来事を分析することが中心だからです。歴史学を学ぶ最大の面白さは、様々な史料に触れることで、自分のイメージしていた歴史像が覆っていく点でしょう。私はアジア史ゼミで満洲国や満州移民の歴史について学んでいます。ゼミには中国の少数民族や近代インド史など自分と異なる興味を持つ学生もいるため、アジアの様々な地域や分野について幅広く知ることができました。もし歴史に関心があるなら、日本史や世界史が不得意だった人でも歴史学を選んで欲しいと思います。大学の講義やゼミの演習で学んだ新しい知識や考え方から捉える歴史は、皆さんにとって驚きと面白さに満ちたものになるでしょう。

言語文化学
Languages and Cultures

主専攻プログラム

- 日本語学・日本文学
- 中国語学・中国文学
- 朝鮮語・朝鮮文学
- イギリス文学・文化
- アメリカ文学・文化
- 英語学
- ドイツ文学・文化
- フランス文学・文化
- ロシア文学・文化
- 言語学

言語文化の学びが誘う多様性の世界

言語文化学の学習・研究領域は多岐にわたります。言語学は言語そのものの不思議を深く学び研究します。文学は文学作品を読みこみ作者の意図と作品の意味を探ります。文化学は文学以外の様々な文化現象を考察し理解を深めます。

言語文化学プログラム

日本、中国、朝鮮、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、ロシアの言語・文学・文化を専門的に学び、高い言語運用能力を身につけるとともに、鋭い言語感覚と豊かな表現能力を養います。

言語分野では、言語表現の音声、形態、意味、構造、用法などの規則性・法則性の考察を進め、さらに、言語の歴史的変化や普遍性・個別性などの奥深さを理解します。そして、文学分野では、古代から現代まで生み出されてきた詩歌や劇、物語、小説などの文学作品を研究し、人間の優れた叡智に触れ、普遍的諸問題についての考察を深めます。また、文化分野では、芸術、歴史、社会の変動など、幅広い文化的事象に関して知識を拡げ、多角的な視野と分析的思考の陶冶をはかります。

本プログラムでは、異なる言語・文学・文化を横断的に探求し、総合的に把握することによって、多様な価値観が存在する国際社会の中で生きていく柔軟な思考力を伸ばし、協働的な行動力を身につけることができます。言語文化研究の専門性は、国語科および外国語科の教育、日本文化の世界への発信、外国の文化の翻訳や通訳など、国際社会で活躍する人材がますます求められる官公庁や民間企業で活躍するためにも活かしていくことができます。

言語文化学プログラムで学べること

- 人間言語のしくみを解明する
- 語や文の組み立て方の法則性
- 日本の近現代文学と時代背景
- 『源氏物語』などの王朝物語の世界
- 日本の古典をくずし字で読み調査する技術
- 近現代日本語における音声・語彙・文法の姿
- 日本語の変化・変遷
- 中国語の歴史的変遷
- 中国近代以前の文学史と作品の読解
- 朝鮮半島および在日朝鮮人の言葉と文学
- イギリス近代小説の読解と分析方法
- 英語の発音の規則性
- 英語と日本語の比較研究
- 英語で書かれた詩の読解
- 近現代ドイツの文化・思想
- フランス文学・芸術作品の解釈
- 近代フランス小説や詩の分析方法
- 近現代ロシアの文化・芸術

教員からのメッセージ

日本語学を学ぶ仲間たち

日本語のすがたを、ありのままに —日本語(学)とは何か—

三ッ井 正孝 准教授　MITSUI Masataka

日本語は私たちにとって最も身近な言葉です。それだけに何でも知っている気になり、裏付けのない感覚的な態度で向き合いがちです。例えば「全然」を肯定文で使う「全然大丈夫」という言い方。ある人は「これは言葉の乱れ。「全然」は否定文で使うべき」と非難し、ある人は「言葉は生きているから変わるのは当然」と擁護します。しかし、どちらの態度も支持できません。なぜなら、どちらも事実を正確に捉えていないからです。日常「全然」を肯定文で使う人も、おいしい料理を食べ終わった後、「ああ全然おいしかった」とは言わないでしょう。現実に定着している言い方を「乱れ」と切り捨てる場合はもちろん、「乱れ」に寛容な立場であっても、こうした興味深い事実を見逃してしまいます。

いわゆる「言葉の乱れ」は実は言語変化の一段階という場合があります。この言語変化の譬えとして「言葉は生きている」という表現はたしかに絶妙ですが、単に「生きている」というだけでは思考停止にすぎません。「言葉は生きている」というなら、もう一歩進め「〈どのように〉生きているのか」と問うべきです。つまり、その言い方があらわれる場合を正確に把握し、次に、そのようなあらわれ方をする理由を捉える必要があります。日本語学とは、このように事実を正確に把握、記述し、何故そうなっているのかを説明する学問です。

そして、記述と説明をすることは同時に、今まで見過ごしていた事実や、その事実を支える法則、体系を「発見」することでもあります。この「発見」は、「言葉の乱れ」のようないわば「変わり種」にばかりではなく、むしろごくありふれた言葉の中にこそたくさん潜んでいます。「雑草」という草がないように、レギュラー選手だけではチームは成立しないように、すべての語や文にはその存在理由があります。日本語のありのままの「生き様」を見つめることで、その存在理由の「発見」に立ち会えるところに、日本語学を学ぶ醍醐味があるのです。

かなしみを学ぶ

藤石 貴代 准教授　FUJIISHI Takayo

2001年1月、新大久保駅で線路に落ちた人を助けようと命を投げ出した韓国人留学生(李秀賢さん)がいました。翌2002年初夏の日韓共催FIFAワールドカップ。21世紀初めの日本と韓国は、距離的にも心理的にも「近くて近い国」になれそうでした。

東西冷戦さなか(1978年)に駐新潟大韓民国総領事館が開設された新潟市は、かつて朝鮮民主主義人民共和国との交流もありました。新潟港から「在日朝鮮人帰国事業」で約9万3000名が、必ずしも生まれ故郷(韓国)ではない「祖国」へと旅立ちました(なぜでしょう)。南北統一が目的だった朝鮮戦争(1950.6.25〜1953.7.27休戦)はアメリカと中国の参戦で長期化し(ロシアとウクライナは?)、朝鮮半島の「分断」が固定化、1000万人とも言われる離散家族が生じました。韓国では1987年まで軍事独裁政権が続き、いまの香港やミャンマーのように、民主化を求めた多くの人が傷つき殺されました。

1956年度『経済白書』で「もはや戦後ではない」と宣言した日本とは違いすぎる「戦中」の時間を今も生きている隣人隣国の文学作品が、人間にとって苦しく辛い事実から目をそらさず、そむけず、えぐり出し、描き出す筆致は、時として読むのが辛いほどです。

たとえば、刻々と沈んでゆく船の乗客(修学旅行の高校生たち)を救えなかったセウォル号事件(2014.4.16)を経験した文芸評論家の言葉を紹介します。「私たちが本を読む理由のうちの一つは、私たちが知らないことがあるということを知るためである。(中略)だから一生の間にすべきことが一つあるとすれば、それは悲しみについて学ぶことではないか。他人の悲しみに「もううんざりだ」と言うのは残酷なことだ。」(シン・ヒョンチョル『目の眩んだ者たちの国家』)。「文学とは一時代の悪を、もう少し深い悪として把握できるようにしうる装置であり、どんな社会的現象も文学的検証なしには決して克服されないと信じている」(キム・ユンシク『私にとって日本とは何か』)。私が韓国(朝鮮)文学を読み続けたい理由のいくつかです。

教員からのメッセージ

面白い言語の仕組みを解明したい

北田　伸一 准教授　KITADA Shinichi

　このタイトルが私の研究内容です。ちなみに、このタイトルが2つの意味を持つと言われて、それぞれがどのような意味解釈になるか説明できますか?一つは、「面白い」という形容詞が「言語」という名詞を修飾する解釈です。例えば、英語という言語は面白い言語で、その面白い英語がどのような仕組みになっているのかを解明したい、という解釈です。この解釈を視覚的に捉える方法として、次のように図示して表示したりします。

　(1)[[面白い言語]の仕組み]を解明したい

これは、「面白い」が「言語」と括弧で括られていることから、「面白い」が「言語」を修飾していることを示します。もう一つの意味解釈は、「面白い」という形容詞が「(面白い)仕組み」という名詞(句)を修飾する解釈です。例えば、英語という言語には面白い仕組みが備わっていて、その面白い仕組みを解明したい、という解釈です。この解釈を図示すると次のようになります。

　(2)[面白い[言語の仕組み]]を解明したい

ここでは、先ほどの(1)で示した表示とは異なり、「面白い」が「(言語の)仕組み」の部分と括弧(外側の括弧)で括られています。これは、「面白い」が「(言語の)仕組み」を修飾することを示します。

　このように、複数の単語が左右に並んでいる一つの言語表現が、二つ(以上)の異なる意味解釈を持つことがあります。これを専門的には「言語の構造的多義性(structural ambiguity)」と呼びますが、この特性を説明するには、言語が目に見えない階層的な構造(例えば、上記の(1)や(2)で括弧を用いて表示したような構造)を持つと考える必要があります。こうした抽象的な階層構造がどのような特性を持っているのかについて研究する分野を理論言語学(統語論)と呼び、これが私の専門分野です。その中でも特に英語を中心的に扱うので、英語学とも言います。この分野は未解決の問題がまだまだたくさんあり、新しい発見を味わうことのできる魅力的な研究分野です。

　したがって、構造的多義性を示す面白い言語(英語)が、なぜ、このような多義性を生み出す面白い仕組み(階層構造)を持っているのか、に興味・関心を抱いたら、統語論(英語学)に触れてみるのも面白いと思います。

テクストからの問いかけ

田邉　恵子 准教授　TANABE Keiko

　日常生活を送っていて、「なんでこの人はこんなことを言うんだろう?」と疑問に思ったことはありませんか。他者の真意を想像して嬉しくなったり悲しくなったり、ときには混乱したりする経験を誰しもお持ちだと思います。実は、こうした「他者にたいする問いかけ」と文学研究は同じ根っこを持っています。つまり、私が専門とするドイツ文学・思想とは、ドイツ語の技術を基礎にしながら、他者=テクストが発する声にじっくりと耳を傾け、その声が意味するところを追求する学問なのです。

　私の研究対象は、戦間期ドイツを代表する文筆家ヴァルター・ベンヤミンの作品です。もう10年くらい彼のテクストを研究していますが、「なぜこの単語をあえて使っているのだろう」「なぜこの部分を削除したのだろう」などなど、テクストから立ち現れる「なぜ?」がいまだ途切れることはありません。ベンヤミンから投げかけられる無限の問いに立ち向かうためには、彼の隣人たちの雄弁な声もたくさん聞く必要がありますし、ついでにこの人が生きた場所の空気を実際に感じたいとの思いから故郷ベルリンにまで足を運びました。したがって、テクストを「読む」とは机の上の作業を指すだけではなく、自らの思考世界を広げるプロセスであると言えます。

　外国語文学研究の魅力は、国や時代の垣根を超えて、テクスト越しに作者や登場人物たちと友人になれることです。ドイツ文学では、ヴェルター、メフィストフェレス、ユーリウスとルツィンデ、ハンス・カストルプ、ヨーゼフ・Kといった数えきれない人物たちが、みなさんからの問いかけを待っています。

　戦後に活躍した女性思想家ハンナ・アーレントは、「考えること」を、「私と私自身との対話である」と言いました。他者=テクストと静謐に、そして同時に活動的に向き合うことは、自分自身も気づいていなかった内なる声との出会いでもあります。こうした出会いの瞬間をぜひ楽しんでみてください。

教員紹介

秋 孝道（アキ タカミチ）　AKI Takamichi
准教授　英語学

理論言語学(生成文法理論)に基づいて、英語の文・句の構造に関する仕組み(統語論)や、英語の文・句の意味に関する仕組み(意味論)を解明する研究を行っています。また、英語と日本語の構造・意味の比較研究も行っています。しっかりした言語理論を想定して言語の研究を進めて行くと、「予測された事実が実際に存在する」ことを体験できることがあります。この「発見の興奮」を体験させてあげたいと思います。

市橋 孝道（イチハシ タカミチ）　ICHIHASHI Takamichi
准教授　イギリス文学・イギリス文化

19世紀中頃に活躍したイギリスの文豪サッカレーとディケンズの作品を中心に、ヴィクトリア朝時代の文化全般についての研究も進めています。二人の作家は大英帝国の繁栄を様々な角度から描いており、類似点もあれば興味深い相違点も多く見受けられます。近代文明の基礎が築かれていく時代に創作された彼らの作品には、そうした社会や文化に対する人間の詳細な心理を読み取ることができ、現代の私たちにも通じる部分があります。

大竹 芳夫（オオタケ ヨシオ）　OTAKE Yoshio
教授　英語学

「ことばは文化の乗り物、心の鏡」であると言われます。英語ということばには英語話者の文化や発想が映し出されます。授業では、英語に特有の仕組みを観察しながら、英語話者の生き生きとした感覚や発想、異文化と自文化の価値の多様性、そして人間の心の働きとことばの仕組みの結びつきを探求します。また、応用言語学的見地から、言語理論と英語教育との接点についても考えます。最新の言語学や英語教育の研究成果を、わかりやすく、深く、面白く皆さんに伝えることを心がけています。

小島 明子（コジマ アキコ）　KOJIMA Akiko
准教授　中国文学

中国清末の文学と周辺の文化背景に興味をもち、特に王国維の詩・詞・文学論と『教育世界』という雑誌について研究しています。授業では中高では学ばない中国文学に着眼し、研究する上で基礎となる資料を、古典を中心に幅広く選定し、精読を行い、読解力を養う訓練を行っています。しかし、授業は一つのきっかけにすぎません。大学での学問はここから始まります。これを機にたくさんの作品に触れ、自ら世界を広げていってください。

高橋 早苗（タカハシ サナエ）　TAKAHASHI Sanae
准教授　日本中古文学

平安時代に創り出された『源氏物語』や『夜の寝覚』などを中心に、王朝物語の世界について日々考えています。「豪華絢爛」といった言葉が付与されがちな王朝物語ですが、その華やかなイメージとは裏腹に、多くの作品に「憂愁の思い」が深く織り込まれているところに心惹かれます。授業では、上記以外の作品も取り扱います。テキストの表現一つ一つを吟味したうえで、各人それぞれの「読み」を提示してもらいたいと思っています。

津森 圭一（ツモリ ケイイチ）　TSUMORI Keiichi
教授　フランス文学

『失われた時を求めて』の作者として知られるマルセル・プルーストの研究をしています。プルーストが作品中で「風景」をどう描写しているかというテーマに取り組んでいるうちに、「風景」とはそもそも何か、という問題に関心が広がっていきました。授業では、「風景」を表現する手段である「文学」、「庭園」、「建築」、「絵画」、以上4つの領域をめぐって、皆さんと意見交換できることを期待しています。

磯貝 淳一（イソガイ ジュンイチ）　ISOGAI Junichi
教授　古代日本語論

古代から近世に至る日本語の実態と変遷を「なま」の言語資料を用いて解明します。同じ「古典」でも、活字と古写本とでは知り得る情報に大きな違いがあります。読みやすさを手にする一方で、私たちは古典との断絶にも向き合っているのです。「なま」の資料の一字一字を辿ることは、過去の〈今・ここ〉、即ち音韻・表記・語彙・文法が当時の書き手達の「息づかい」と共にあった状況をリアルに追体験することにほかならないと私は考えています。

江畑 冬生（エバタ フユキ）　EBATA Fuyuki
教授　言語学・言語類型論

研究対象は言語です。言語は物ではないので、実際に手にとって調べるわけにはいきません。人間の言語活動を観察する必要があります。人間が意思を相手に伝える際、言語が手段になります。物理的には音声が用いられます。音声が対話者の耳に入り意味として理解されたときにはじめて、伝達が成立します。発した瞬間に消えてしまう音声と、客観的に捉える事が難しい意味。ある種つかみどころのない音声と意味を、なんとか科学的に解明しようするのが言語学です。言語は我々にとって身近すぎる存在ですが、ふだん意識されないその構造には驚くべき緻密さが見られるのです。

北田 伸一（キタダ シンイチ）　KITADA Shinichi
准教授　英語学

生成文法理論という理論的枠組みに基づいて統語論の研究をしています。具体的には、英語や日本語などの個別言語の間に観察される変異や、同じ英語であってもイギリス英語とアメリカ英語の間に変異が観察されますが、これらの変異がどのような仕組みによって生じているのかに興味をもって研究をしています。また、こうした言語間変異の仕組みから抽出される普遍的な言語一般の特性の解明にも関心を持って研究をしています。

鈴木 正美（スズキ マサミ）　SUZUKI Masami
教授　ロシア文学・ロシア文化

現代ロシアの詩、芸術、音楽が主な研究対象です。どのジャンルも密接に関連しており、日々新たな表現が生まれています。多彩な作品や表現を追う毎日は刺激に満ちていて、決してあきることはありません。どんなにつらいことがあっても酒とジョークで笑いとばし、芸術にどっぷり浸り、人生を最大限に楽しむのがロシア流なのです。哲学的な文学や難解な現代芸術作品から心躍るジャズやロックまで、幅広くロシア文化に関する授業を行っています。

田邉 恵子（タナベ ケイコ）　TANABE Keiko
准教授　ドイツ文学

戦間期ドイツで多彩な執筆活動を展開した文筆家ヴァルター・ベンヤミンの作品が専門です。とくに彼の亡命期の思想に着目して研究を進めています。さらに最近はベンヤミンから出発して、「故郷」「過去の思い出」「子ども」といったキーワードのもとで19世紀〜20世紀のドイツ文学・思想を考察しています。過去の言説を読み解くことは、現在や未来を思考するために自分独自のまなざしを得ることにつながります。新たな出会いに溢れるドイツ文学の世界を一緒に探検しましょう!

長沼 光彦（ナガヌマ ミツヒコ）　NAGANUMA Mitsuhiko
教授　日本近現代文学

明治時代以降の日本近現代文学を対象として、同時代の思潮や風俗との関係を研究しています。例えば、明治時代の夏目漱石『三四郎』を読むと、主人公の大学生活は今と変わらないように思えます。一方で、その恋愛や世の中に対する考え方は、今と少し異なるようです。過去の文学には、現代に通じる面と、その時代特有の価値観を反映した面があります。共感しながらも、その時代特有の思潮や風俗を知ることで、文学の読解をより深めることができます。

教員紹介

グレゴリー・ハドリー　Gregory HADLEY
教授　英語教育の社会学

21世紀のグローバル新自由主義の社会の中、学生をグローバル市場や企業の課題に対応させることが求められています。しかし、学生の知性を鋭くし、自分自身とは異なる人々や社会に対する見方を洗練させることのほうがより重要だと信じています。そのようなスキルを身につけた卒業生は地域社会と国際社会の両方に多大な貢献をすると思います。このような信念のもと教育研究を行ってまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

廣部 俊也（ヒロベ シュンヤ）　HIROBE Shunya
准教授　日本近世文学

江戸時代は「文学」の意味がもっとも揺れた時代だったと言えます。本格的な古典文学は過去のものであり、西洋的な近代文学は到来していない時代。別の見方をすれば、堅苦しく考えず、資格も問われずに誰もが気楽に文芸に参加できた時代なのかもしれません。結果、現在の私たちが「日本的」だと感じるものの多くがこの時代に形作られました。そういう自由な空気が好きで、戯作・俳諧・歌舞伎・浮世絵などについて考えています。

アンニャ・ホップ　Anja HOPF
准教授　ドイツ語教育・ドイツ文化学・日本研究

外国語としてのドイツ語教育（DaF）の研究と実践を行なっています。コミュニケーションスキルズ（スピーキング、リスニング、ライティング）、長文読解、和独の翻訳はもちろん、CLIL（Content and Language Integrated Learning）の可能性にも興味を持っています。またドイツと日本の近現代における消費文化やアート、さらにはサブカルチャーを美術史/文化学的視点から考察しています。日本から見たドイツ、ドイツから見た日本のイメージの変遷にも関心を寄せています。ドイツ語の奥深さを学ぶことを通じて日独関係の意外な一面に触れてみませんか?

千野 真一（ホシノ シンイチ）　HOSHINO Shinichi
准教授　中国語学

中国語学の授業を担当しています。口語語彙の変遷、特に前置詞に関心があり、歴代の文学作品などに見られる用例をもとに考察しています。中国語を学び初めのころは、徹底して音声を体にしみ込ませ、音に対する反応を磨きましょう。文法を学ぶ際は、日本語や英語など、他の言語との違いにも目を向けてみましょう。言語表現には、その言語の世界の切り取り方が反映されていますから、中国語的なものの見方に迫ることが、学ぶ楽しさ、多様な価値観の修得につながります。

外国人教員
准教授　アジア文化

毎年、人文学部と交流協定のあるアジアのいろいろな大学の教員が、アジアの言語文化に関する講義や外国語の授業を担当しています。

平野 幸彦（ヒラノ ユキヒコ）　HIRANO Yukihiko
准教授　アメリカ文学

19世紀前半のアメリカの作家エドガー・アラン・ポーを中心に研究を進めています。また、英語教育における文学作品の活用法や翻訳論などにも関心があります。文学を始め、芸術を学ぶ意義は、異なる時空に生を享けた人々の想像力が生み出した偉大な作品から、21世紀の日本に生きる我々固有の問題や、人間存在に普遍的なテーマを考えるための手がかりを得ることにあると思います。皆さんも、この汲めども尽くせぬ叡智の泉を探ってみませんか。

藤石 貴代（フジイシ タカヨ）　FUJIISHI Takayo
准教授　朝鮮文学

日本では漢字が「真名」であり、漢字を書き崩して「仮名」ができましたが、ハングルは漢字や仮名とは制字原理を異にする表音文字です。朝鮮王朝4代目の国王、世宗の時代に、建国叙事詩「龍飛御天歌」を作るなど試行を経て公布されました。高麗時代から科挙が行われた朝鮮では漢文こそが文章語でしたが、ハングルで詩歌が記録されるようになり、17世紀頃からハングル小説も登場します。辞書をひきひき一緒に解読してみませんか。

逸見 龍生（ヘンミ タツオ）　HEMMI Tatsuo
教授　フランス文学・思想

「光の世紀」と原語でいわれる新しい時代を求めたフランス18世紀の思想家たちの著作を主に研究しています。ゼミではフランス語文化のもつ魅力と奥行きを幅広くとらえます。フランス語をしっかりと身につけたうえで、作家のことばの一つ一つを正確に読み解いたり、歴史に散歩したり、芸術に結晶されたその美意識や感受性をあじわう。その世界は万華鏡のように多様で、深みがあります。フランス語圏の社会や文化の世界にわけいる楽しさ、ヨーロッパ、そして他の文明圏の伝統や現在と、精神的交流をする歓びを、ともに経験していきましょう。

三ッ井 正孝（ミツイ マサタカ）　MITSUI Masataka
准教授　現代日本語論

日本語（主に近現代語）を対象として、語彙や文法を中心に学んでいます。例えば、〈「壊す」には「壊れる」と、似た形の語があるのに、「食べる」にはない。これはなぜだろうか?〉〈「文法について勉強する」と「文法を勉強する」とは何か違いがあるのだろうか?〉〈明治や大正の文章には、私たちの使わない言い方があらわれる。現代に至るまでにどんな変化をしたのだろうか?〉そんなことを、日々、学生たちと考えています。

学生の声

日本文学を学ぶ面白さ　鎌田 晃太朗　日本文学３年

文学の読解は、いつも新しい発見があります。私は、高校で読んだ『竹取物語』や『羅生門』に魅力を感じ、大学でより専門的に学びたいと思っていました。そこで今年から、平安文学と近現代文学のゼミで学んでいます。ゼミの活動では、「自分なり」の解釈を示し、過去の多様な読み方に重ね合わせることができます。例えば、『羅生門』を脇役の老婆の立場で考察することで、高校時代には気付かなかった作品の新たな魅力が見えてきます。文学作品は、論じ方や視点によって読み方は無数です。よって、自由に私たちの考えを反映させることができます。みなさんも、自分の考えや思いを、文学作品を学ぶことを通して表現してみませんか?　文学の読解は、卒業後もずっと続けることができるので、みなさんの世界を豊かにしてくれると思います。

奥深い中国語の世界　新野 まどか　中国語学4年

私は中国語の研究を通して、その奥深さを強く感じたのはもちろんですが、逆に普段私たちが何気なく使っている日本語の特徴についても考えるようになりました。中国語も日本語も同じ漢字文化圏なので共通する点も多くありますが、私は両者の違いにこそ面白さを感じます。他言語同士を比較することで、個々の言語の特徴をより深く理解できるのだと思います。日本語を母語とする私たちが中国語を研究することが、かえって中国語特有の面白さの発見に繋がるかもしれません。私が中国語を学び始めたきっかけは、たくさんの人とお話ししたいからという単純なものでしたが、中国語を学んでみて初めて知ったものの見方や考え方もたくさんあります。新しい言語を学ぶことは新しい価値観に触れることでもあります。中国語を通して新たな世界をのぞいてみませんか。

英米文学の旅へ　吉田 陽太　英米文学３年

皆さんは英米文学を読んだことはあるでしょうか。シェイクスピアやヘミングウェイ、カズオ・イシグロなど有名な著者がたくさんいますが、英米文学のゼミではこのような作品を実際に原文で読み学んでいきます。高校までの英語とはひと味違い、テクストと一対一でひたむきに向き合うことで、原文でしか味わえない雰囲気や絶妙なニュアンスを感じることができます。実際に作品を読んでみるとその情報の濃さに驚かされます。花や虫が象徴する事柄、色の描写の意味、なぜあえてこの比喩表現を使うのか等々……必要のない文は一つもなく全てに意味があるのです。これらの表現を通して当時の文化、思想、風俗などを知り、頭の中に小説の世界を思い描く。教室に居たまま、さながらその世界へ旅する——これが文学の持つ素晴らしさの一つだと私は思っています。これを読んだあなたも英米文学の世界へ旅してみませんか。

楽しいドイツ文化　大平 歩　ドイツ言語文化学３年

ドイツ言語文化で扱う範囲は幅広いです。例えば授業では、ゲーテ、カフカの小説やグリム童話、アドルノの思想などをドイツ語で読解したり、パウル・クレー、ゲルハルト・リヒターといった芸術家の作品を鑑賞したり、ドイツ語でセリフを書いて短編映画をつくったり…こんなに自由で楽しいプログラムがほかにあるでしょうか。私は高校の倫理の授業で多くのドイツ人哲学者に興味を持ったことがきっかけでしたが、知れば知るほどおもしろい人物・作品が山ほど登場して、ますますハマっています。また、文化を学ぶうえで基礎となるドイツ語の勉強が面白く、留学生との交流や留学といった、今現在のドイツと関わる機会もたくさんあります。興味を持った方がいれば、ぜひドイツ語やドイツ文化の授業を取ってみてください!

国際交流・大学間交流

人文学部は外国の諸大学との教育・研究の交流を積極的に進め、グローバル化する現代社会に必要なバランス感覚を備えた人材を養成しています。
在学中に積極的に長期・短期の留学をする学生諸君も多く、人文学部で学ぶ外国人留学生も徐々に増えてきました。
さらに、敬和学園大学人文学部、新潟国際情報大学との間で単位互換協定を結んでいます。
人文学部で学ぶということは、このように開かれた知的ネットワークの住人になることでもあるのです。

イギリス
- 大 シェフィールド大学
- 大 ブリストル大学
- 部 ブリストル大学文学部

イタリア
- 大学 ラクイラ大学
- 大学 ミラノ大学

ドイツ
- 大学 ダルムシュタット工科大学
- 大 ビーレフェルト大学
- 部学 ビーレフェルト大学 言語学・文学部及び歴史・哲学・神学部
- 大学 マグデブルク・オットー フォンゲーリック大学
- 部学 ルール大学ボッフム東アジア学部
- 大学 ミュンスター大学

リトアニア
- 大学 ヴィリニュス大学

トルコ
- 大学 アンカラ大学
- 大学 中東工科大学
- 大学 エーゲ大学

インド
- 大 コーチン科学技術大学
- 大学 インド理科大学院大学
- 大学 インド工科大学ルールキー校
- 大学 インド宇宙科学技術大学

ラオス
- 大学 ラオス国立大学

スリランカ
- 大学 ペラデニア大学

フランス
- 大学 ナント大学
- 部学 ボルドー・モンテーニュ大学
- 部 リヨン高等師範学校
- 大学 ボルドー大学

オランダ
- 大 ワーヘニンゲン大学

スペイン
- 大 マドリッドコンプルテンセ大学
- 大学 ナバーラ州立大学

クロアチア
- 大 スプリット大学

ポーランド
- 大学 ウッジ大学
- 大 コズミンスキー大学

ベトナム
- 大学 ハノイ工科大学

カンボジア
- 大学 王立プノンペン大学

フィリピン
- 大学 アテネオ・デ・マニラ大学

タイ
- 大学 コンケン大学
- 部 スリン地域総合大学
- 大学 チェンマイ大学
- 大学 タマサート大学
- 大学 チュラロンコン大学
- 大学 カセサート大学
- 大学 モンクット王工科大学トンブリ校
- 大 ナレースワン大学

インドネシア
- 大 ウダヤナ大学

ロシア
- 部 国立極東人文大学
- 大学 サンクト・ペテルブルク大学
- 部学 北東連邦大学
- 部 極東連邦総合大学東洋学院
- 大学 沿海地方国立農業アカデミー
- 大学 極東国立農業大学
- 大 モスクワ国立大学
- 大 太平洋国立大学
- 大 モスクワ国立第一医科大学
- 大学 極東連邦大学

カナダ
- 大 アルバータ大学

オーストラリア
- 大学 シドニー工科大学

中国
- 大学 華中科技大学
- 大学 華中師範大学
- 部 華中師範大学外国語学部
- 部 華東師範大学国際漢語文化学院
- 部 華東理工大学公共社会管理学院
- 部 吉林大学東北アジア研究院
- 大学 黒竜江大学
- 大学 湖南大学
- 大学 湖北大学
- 部学 首都師範大学歴史学院
- 大学 西安交通大学
- 大 清華大学
- 部 清華大学人文学院
- 部 清華大学人文学院歴史学部
- 大学 大連理工大学
- 大学 中央民族大学
- 部 中国海洋大学文学院
- 部 中国人民大学国学院

韓国
- 部学 翰林大学校人文大学
- 部 ソウル大学校人文大学
- 大学 漢陽大学
- 大学 仁荷大学
- 部学 仁荷大学校文科大学

アジア太平洋地域
- 大学 アジア太平洋大学交流機構

アメリカ
- 大 イリノイ大学シカゴ校
- 大 オレゴン大学
- 大 ミネソタ大学
- 大 カンザス州立大学
- 部学 ニューヨーク州立大学フルドニア校
- 大学 ロードアイランド大学
- 大 ロズウェルパーク癌研究所

モンゴル
- 大 モンゴル医科学大学
- 大学 モンゴル生命科学大学
- 大学 モンゴル国立大学
- 大学 モンゴル科学技術大学
- 大 モンゴル教育大学

中国
- 大学 中国地質大学武漢校
- 大学 中国地質大学北京校
- 大学 中国農業大学
- 部学 天津外国語大学日本語学部
- 大学 東北師範大学
- 大学 東北大学
- 大 ハルビン医科大学
- 部学 復旦大学中国語学部
- 部 復旦大学歴史学部
- 大学 北京師範大学珠海分校
- 大 北京大学
- 部学 北京大学歴史学系

台湾
- 大学 義守大学
- 大学 国立中央大学
- 大 国立彰化師範大学
- 大 国立成功大学
- 大 国立台湾師範大学
- 大学 国立高雄師範大学
- 大学 国立高雄大学
- 大学 静宜大学
- 大学 中原大学
- 部学 長栄大学人文社会学院
- 大学 東呉大学
- 大学 南台科技大学
- 大学 文藻外語大学

国内の協定大学

単位互換協定
敬和学園大学人文学部
新潟国際情報大学
（国際学部、経営情報学部）

学部間協定
愛媛大学法文学部
岩手大学人文社会科学部

大 新潟大学が結んでいる大学間交流協定　部 人文学部が結んでいる部局間交流協定　学 学生交換協定がある大学　＊2023年5月31日現在

教員紹介

助教 ENOMOTO Chikako
榎本 千賀子（エノモト チカコ）
専門はメディア論です。市民が主体となってコミュニティの記録を保存・管理・活用するコミュニティ・アーカイブについて、福島県奥会津地域での実践を通して研究しています。また、人々が環境と応答して生み出す身近な「かたち」に関心を寄せ、写真作品を制作しています。情報通信技術の進展によって大きく変わりつつあるメディアと社会を、みなさんとともに考え、未来を探っていきたいと願っています。

助手 EIKI Atsuko
永木 敦子（エイキ アツコ）
留学に行く皆さんや、人文学部に来ている留学生の皆さんのお手伝いをしています。またアジア関係の雑誌や書籍などの管理も担当しています。資料について何か分からないことがありましたら、お気軽にお尋ね下さい。

留学生の声

自分の成長を感じられた留学生活
赤木 美祐希　朝鮮文学4年

私は3年の後期に半年間、韓国の漢陽大学に留学しました。韓国語運用能力を高めるため、正規の授業を受けながら語学堂にも通いました。最初は先生の話をちゃんと聞き取れず、しんどい思いをしましたが、会話練習を重ねるうちに慣れました。毎日韓国語に囲まれて生活するので自分の成長を感じられました。私が大好きな韓国アイドルの大型広告や、誕生日に開催されるカフェを実際に見に行けるのも幸せでした。街を歩くだけで韓国語を勉強するモチベーションが上がりました。たまに「日本の方ですか?」と日本語で声をかけてくれる店員さんがいて、日本語で話しかけてくれたことも嬉しかったし、日本語と韓国語でアニメの話をして楽しかったのが記憶に残っています。いまは翻訳機も発達していますが、自分で考えて自分の言葉で話すことの大切さを実感しました。新型肺炎に感染したことを含め、私にとって留学は、精神的にも語学力の面でも成長させてくれたかけがえのない経験です。

念願だったアメリカ留学
佐藤 はな　英米言語文化4年

私は3年次の後期から約9か月間、アメリカのロードアイランド大学に交換留学をしました。高校生の時から留学をして異文化に触れてみたいという夢を描いていましたが、コロナ禍もあってなかなか海外への渡航が難しい状況が続き、3年生になってやっとその夢が叶いました。大学があるロードアイランド州は、アメリカの全州の中でも最も小さく、綺麗な海に囲まれた、美しく落ち着いた所です。ボストンやニューヨークに近く、それぞれ電車で気軽に行くことができるので、週末や長期休みを使って遊びに行ったりしていました。平日は授業や課題で忙しい生活を送っていましたが、一緒に住んでいる国際寮の仲間たちと一緒に食事をしたり、映画を見たりする時間が日々の励みになっていました。大学では現地の学生と同じ正規科目の授業を受けていたため、最初はついていくことに精一杯でしたが、自分で決めた目標に挑戦し、それをやり遂げられたことは今の自信に繋がっていると感じています。

自分の世界はより一層広がりました
ゼン・カオン　フランス言語文化卒業・現代社会文化研究科在学中

4年生の時の交換留学でフランス語の環境に浸かって、いろいろな新しい知識を得たほか、おいしい食べ物もさまざま知ることができました。大学のキャンパスの中の寮での学生生活も穏やかで楽しく過ごせました。フランス人向けの日本語ボランティアとして大学の日本語の授業にも参加できましたが、むしろ、自分が日本語を再び勉強することができたと思います。また、毎週月曜日に大学であったダンス教室もとても愉快でした。留学前、新潟大学人文学部でフランス語とフランス文学を勉強するときに目にしたフランスの風景に、じっさい出会ったときは、ほんとうに頭がくらくらするほど感動しました。さらには、ボルドー・モンテーニュ大学では、世界中から来た人々と出会って、それぞれの人生経験を聞いて、自分の世界はより一層広がりました。皆さんも、自分が学んだ言葉を実際に使いたい、その言葉が生まれた国を見に行きたいと思ったら、ぜひ行ってみてください。

新大に留学してよかったと思う毎日
チョ・ユンビン　言語学4年

令和元年、私は新潟の漫画家さんから「新潟大学に来てみませんか?」と言われて、韓国から新潟大学に入学しました。深く悩まずに決めた入学でしたが、私の大学生活はあまり順調ではありませんでした。日本語が難しすぎて授業の感想を書くのに何時間もかかり、コロナ禍で2年間オンライン講義だけに参加してきました。それにもかかわらず新大の学生になってからの毎日が幸せでした。思い切り勉強して活動すれば、機会が得られるからです。多様な分野に触れられる人文学部のカリキュラムと大学の副専攻プログラムを通じて、私はメディア・言語・データの関係について考察することができました。素晴らしい先生方は私の質問に熱心に答えてくださり、教員の方々はいつも私に配慮してくれます。また、明るく元気のある友達と一緒にサークル活動をすると前向きな気持ちが溢れてきます。このような環境の中で目を覚ましたある日の朝、私を歓迎したのは綺麗な空気とスズメの鳴き声、そして自ら成長したという感覚でした。今後どのような事が私を待っているかは分かりません。しかし、ここなら何でもできると信じながら、残りの1年間新大での生活を満喫し、新潟の美しい花火も見に行きたいと思います。

就職データ

就職状況（過去3年間）

■ **令和2年度卒業生**　令和3年5月1日現在

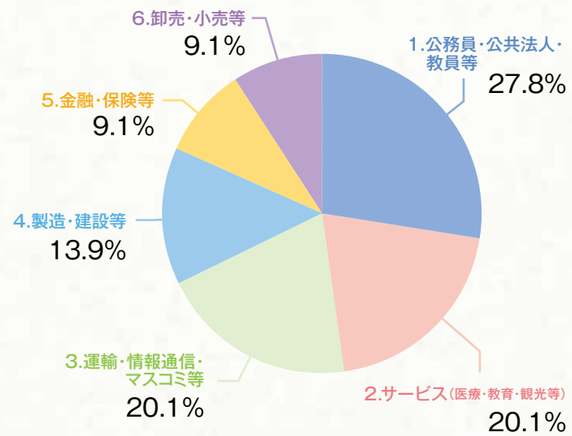
就職率 **100%**（男 100%　女 100%）

■ **令和3年度卒業生**　令和4年5月1日現在

就職率 **99.5%**（男 100%　女 99.3%）

■ **令和4年度卒業生**　令和5年5月1日現在

就職率 **100%**（男 100%　女 100%）



過去3年間の主な就職先

1 公務員・公共法人・教員等

- 農林水産省、原子力規制庁、国土交通省中部地方整備局、国立印刷局、関東信越国税局、新潟労働局、群馬労働局、山形労働局、秋田労働局、東京労働局、東北管区警察局、東北経済産業局、東北財務局、東北農政局、東北防衛局、福島地方検察庁、福島地方裁判所、法務省専門職員保護観察官、北陸地方整備局、甲府地方法務局
- 東京都庁、北海道庁、県庁（新潟県、青森県、秋田県、岩手県、宮城県、福島県、栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県、長野県、石川県、富山県、福井県）
- 市役所（新潟市、長岡市、新発田市、三条市、燕市、阿賀野市、佐渡市、村上市、伊勢崎市、桐生市、小山市、大仙市、山形市、仙台市、鹿嶋市、砺波市、行方市、塩尻市、郡山市、山口市）、みなかみ町、会津坂下町、猪苗代町、只見町、東京都葛飾区役所、東京都中央区役所
- 海上自衛隊　■ 県警察（新潟県）
- 国立大学法人（新潟大学、上越教育大学、山形大学、富山大学、千葉大学、群馬大学）
- 公立大学法人（新潟県立看護大学）　■ 学校法人（日本歯科大学）
- 農業協同組合（全国農業協同組合連合会、JA新津さつき、JA全農いわて ほか）
- 中高教員（新潟県、山形県、福島県、栃木県、埼玉県、富山県 ほか）
- 長野市学芸員

など

2 サービス（医療・教育・観光等）

マイナビ、CEC新潟情報サービス、D.A.コンソーシアム、ICEONE、JR東日本びゅうツーリズム&セールス、JR東日本新潟シティクリエイト、KOKK（ハミングツアー）、NSGグループ、RIZAPグループ、SPRIX、アウトソーシング、イオンディライト、きららホールディングス、ケアリッツ・アンド・パートナーズ、セキスイハイム信越、セコム上信越、ベネッセスタイルケア、リビングギャラリー、ワークボート、ワオ・コーポレーション、旭化成ホームズ、新潟県労働衛生医学協会、越後中央農業協同組合、社会福祉法人ロングラン、社会保険診療報酬支払基金、住商アーバン開発、新潟グランドホテル、新潟高度情報学園、積水ハウス、全国健康保険協会、創英コーポレーション、早稲田学習研究会、総合メディカル、当間高原リゾート、日総ブレイン、日本スキー場開発、日本交通、日本年金機構

など

3 運輸・情報通信・マスコミ等

BSNアイネット、CEC、Freewill、HRビジョン、KDDIエボルバ、NECネクサソリューションズ、NS・コンピュータサービス、楽天、NTTドコモ、SBテクノロジー、SCSK、SGシステム、SJC、TISソリューションリンク、TOSYS、アウトソーシングテクノロジー、あとらす二十一、イデア・レコード、えちごトキメキ鉄道、NTTデータ、クリーク・アンド・リバー、コムテックス、ジェイマックソフト、テレビ新潟放送網、ドコモ・サポート、フクコ情報システム、茨城新聞社、岩手日報社、山形テレビ、秋田朝日放送、新潟テレビ21、新潟日報社、第一貨物、中日新聞社、東日本旅客鉄道、東北新社、東北電子計算センター、日本システム開発、日本貨物鉄道、日本交通、日本総合システム、日立社会情報サービス、富士通エフ・アイ・ピー・システムズ、福島民報社、福島民友新聞

など

4 製造・建設等

本田技研工業、ヤマハモーターエレクトロニクス、いすゞ自動車、JA全農にいがた、SUMCO、THK新潟、アドバンテック、東日本高速道路、東京電力ホールディングス、東北電力、北海道電力、エネコープ、コカ・コーラボトラーズジャパン、システム精工、シャトレーゼ、でん六、ホクレン肥料、ヤマキ、ロート製薬、一条工務店、共和工業、三井住友建設、三井物産プラスチック、住居時間、小俣組、雪国まいたけ、ぎょうせい、帝人フロンティアDC、島津ホールディングス、東洋クリエート、東洋紙業、凸版印刷、日本工機、日本食研ホールディングス、日本道路、日立ICTビジネスサービス、富樫組、富士ゼロックス東京、北沢建設、本間組、明和工業

など

5 金融・保険等

ZUU、アイザワ証券、アセアン・フィナンシャル・ホールディングス、イオンフィナンシャルサービス、こくみん共済Coop、ソニー損害保険、ビューカード、みずほフィナンシャルグループ、横浜銀行、丸三証券、三井住友信託銀行、山形銀行、新潟県農業共済組合、新潟県労働金庫、新潟縣信用組合、新発田信用金庫、大光銀行、第一生命保険、第四北越銀行、第四北越証券、中央労働金庫、長野県信用組合、東京海上日動火災保険、東邦銀行、日本政策金融公庫、日本生命保険相互会社、芙蓉総合リース、福島銀行、北陸銀行、明治安田生命保険相互会社

など

6 卸売・小売等

アマゾンジャパン合同会社、トップカルチャー、ニトリホールディングス、ヤマダホールディングス、アークランドサカモト、東京インテリア家具、アクシアルリテイリング、イオンリテール、ウオロク、クスリのアオキ、ゲンキー、JR東日本商事、コニカミノルタジャパン、コメリ、スズキ自販新潟、タケショー、たちばな、ダブルエー、テスコ、テンポスバスターズ、ハーモニック、フレッセイ、ペイシア、マルイ、メガネ流通センター、やまや、ユニバース、リコージャパン、ルック、レスターホールディングス、杏林堂薬局、丸善ジュンク堂書店、原信ナルス、三光社、昭和電機産業、新潟酒販、星光堂薬局、清川屋、石井スポーツ、大河実業、日野屋玩具店

など

大学院進学者数：令和2年度卒業生13名、令和3年度卒業生8名、令和4年度卒業生11名

進学先：新潟大学、北海道大学、弘前大学、東北大学、山形大学、福島大学、一橋大学、筑波大学、名古屋大学大阪公立大学、京都大学、広島大学、岡山大学、九州大学、新潟青陵大学、京都芸術大学

卒業生の声

4年間の学びと進路

法務省 横浜保護観察所　石井 菜々子

私は高校時代から心理学を学びたいと思っており、人文学部を選択しました。大学では認知心理学を中心に、教育学部の臨床心理学の講義なども受講し、様々な心理学を学ぶことができました。現在、心理学の専門知識を活かせる職業として、保護観察官という仕事に就いています。適正なアセスメントを行うことで、保護観察対象者が非行に至ってしまった原因を明らかにし、どのように地域内で立ち直りを支援するか、再犯防止のためにどのようなサポートが必要か考える上で、心理学の知見が役に立つと思います。4年間の大学生活を経て、卒業後も生かせる様々な知識を学べたこと、そして何より素敵な仲間や先生方と出会えたことが、大きな糧となりました。皆さんも人文学部で素敵な大学生活を送りませんか?

自分の言葉を積み重ね、自身を形づくる

国立研究開発法人 理化学研究所　山田 太朗

世の中にはありきたりな言葉が溢れています。「普通」や「青春」、「流行」や「頑張り」など、僕たちの存在や経験はありきたりな言葉で表現されます。しかし、ありきたりな言葉で自身を表現し続けると、どこか自分が自分から離れていってしまうような感覚に陥ってしまいます。そうしたありきたりな言葉たちから離れたところにある自分だけの言葉が、僕だけのかけがえなさを形づくってくれました。この先の人生、僕という一人の人間として生きる時間の方が、大学生だった期間より遥かに長いはずです。大学のあの部屋で過ごした日々で見つかった僕という人間にとってのかけがえなさが、例えそれが六等星ほどの微かな輝きだとしても、これからの人生という長い道を照らしてくれています。

歴史民俗資料館の専門職員として

仙台市歴史民俗資料館 学芸員　渡邉 直登

皆さんは日々のくらしを営む中で、自分自身や周囲の人々が行っている行為にはどのような意味があるのだろうかと疑問に思うことはありませんか。幼少期から「死とは何か」という漠然とした疑問を抱いていた私は、大学に進学する頃には死そのものよりも、葬式や墓の建立、墓参りなど死者を葬り祀る行為とその意味に関心を抱くようになり、それが民俗学を専攻するきっかけとなりました。大学院修了後は仙台市歴史民俗資料館において、展示事業や資料の収集、調査研究、市民向け講座の講師など、さまざまな学芸業務に従事しています。新潟大学で民俗学を専攻したことによって得られた知識と経験を基礎とし、調査地を歩き回って行う観察と人々の語りから得られた地域の生活文化に関する知見を、展示や講座などをとおして市民に伝え、その面白さ、魅力に気付いてもらえたとき、民俗学をとおした社会貢献ができていることを感じます。

歴史学の学びが仕事につながる

新潟日報社 記者　笠原 萌志

新潟県の新聞社、新潟日報社に入社し、新聞記者として働いています。ニュースを読者に届けるために、取材で新潟県内を駆け回る毎日です。大学では日本近現代史を専攻していました。歴史を権力者の側から見るのではなく、一般民衆の側から見ると新しい発見があると考え、特に「民衆史」に興味を持ちました。卒業論文ではハンセン病療養所における、宗教の役割について研究しました。自身で問いを設定し、史料を基に考察を深めていくことは歴史学の醍醐味です。大学では先行研究を踏まえて、情報を整理することの重要性を学びました。記者の仕事も似ています。準備で資料や過去記事を参考に、情報がどこまで公開されているのかを確認します。そして新しい情報を引き出すための質問を考えるという作業をしています。大学での学びが仕事に生きています。

学んだことを振り返りながら今を生きる

栃木県庁　高橋 明日香

元々、中国の文化に興味があり、大学で中国語を始めました。隣の国、料理や芸術など、好きなものがたくさんあったからです。また、高校時代は漢文が得意だったため、中国文学を専門に選びました。卒業して仕事を始めてからも、大学でこの分野を専攻してよかったと思うことがありました。職場で興味を持ってくださった方が、意外にも、私が大学で学んだ古典小説の日本語版を全部読んでくださり、「人間模様が結構描かれていて面白いね。」と感想を聞かせてくれたことは大きな喜びでした。電話相談窓口の方は、人の悩みを聞くために、考え方や生き方を色々な本から学ぶそうです。そのような文学の活かし方もあるのだと気づきました。大学で学んだことは、いずれどこかで役に立つと思います。皆さんも興味のあることに進んで取り組んでみてほしいです。

文学を学ぶということ

株式会社ワオ・コーポレーション　能開センター青山校・小針中央校　及川 慶耀

近現代に活躍した日本の小説家の多くがフランス文学に親しんでいたと知り、なぜだろうと考えたこと、これが仏文科に入った理由でした。大学では、語学力は勿論、多様な表現を分析的に解釈する力、自分の考えを効果的に伝える力を身に付けることができました。こうした力は、例えば私の仕事である学習塾の授業に即して言えば、どのように問いに答えればよいかを考えたり、解答への道筋を受講生に分かりやすく伝えたりする場面で発揮されると考えています。文学は虚学だと時々言われますが、私はこう反論します。文学が人間についての脈々たる研究の一部であるとすれば、ある問いについて自分なりに考えて答えを導くために、果ては自分の人生を鬱腹味わうために、文学は欠かせないもの、すなわち実学である、と。

キャンパスマップ

佐渡島を望む日本海、豊かな緑、四季折々の花々……
自然環境に恵まれた新潟大学のキャンパスでは、勉強、スポーツ、レジャーなど、
充実した学生生活をおくることができます。

総合教育研究棟

人文学部の教員研究室や、資料室、展示室があります。少人数のゼミ室から400人収容の大講義室まで、教育スペースも充実しており、教育・研究の拠点となっています。いろいろな届け出を行う際にお世話になる事務室もこちらにあります。

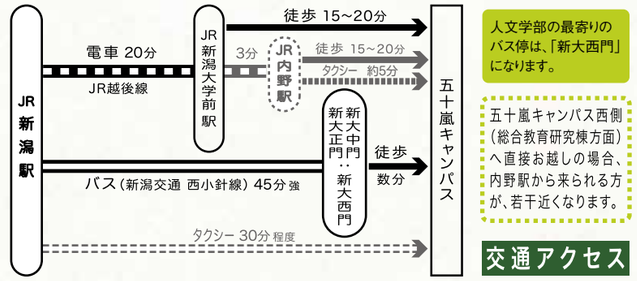
人文学部合同資料室

総合教育研究棟内にある、人文学部の合同資料室には、専門に特化した書籍・雑誌が数多く集められています。学年があがると、図書館だけでなく、こちらの資料を利用する機会も増えてきます。

人文社会科学系棟

人文学部の授業は、教員の研究室がある総合教育研究棟のほか、この校舎の教室でも行われます。

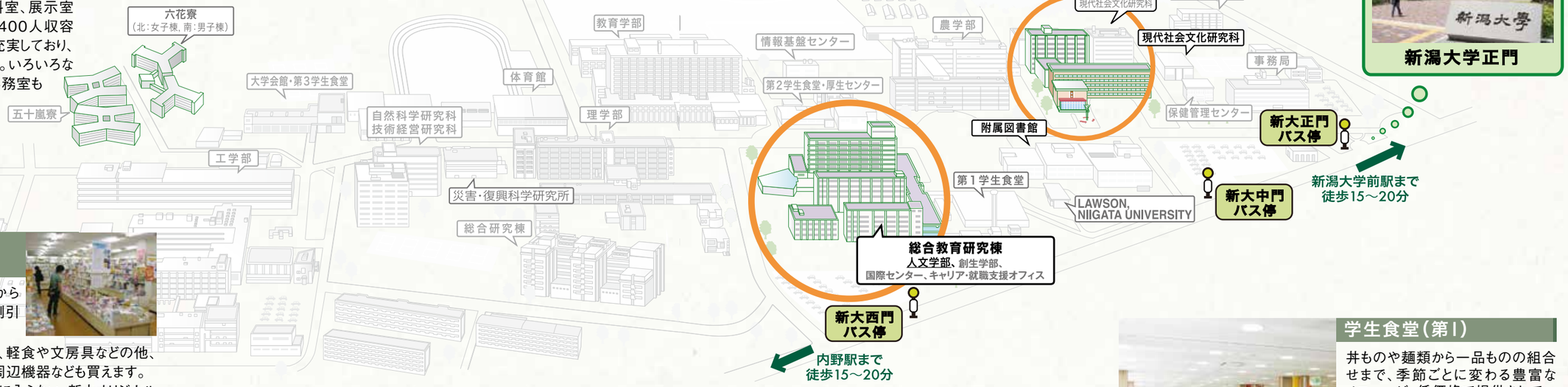
・五十嵐キャンパスの最寄駅は、JR越後線の「新潟大学前」駅、あるいは「内野」駅になります。
・キャンパスまでは、いずれの駅からも、徒歩15～20分ほどかかります。駅から大学までは上り坂が続きますので、バスでのお越しをおすすめします。
・駅からタクシーを利用される場合は、駅前にタクシー待機場がある「内野」駅での下車をおすすめします。



人文学部の最寄りのバス停は、「新大西門」になります。

五十嵐キャンパス西側（総合教育研究棟方面）へ直接お越しの場合、内野駅から来られる方が、若干近くなります。

交通アクセス



新潟大学正門

生協書籍部・購買部（厚生センター）

書籍部では、教科書・専門書からベストセラーまで、様々な書籍が割引価格で販売されています。

購買部では、軽食や文房具などの他、パソコンや周辺機器なども買えます。ここでしか手に入らない、新大オリジナルグッズも要チェックです。

附属図書館（中央図書館）

約130万冊の蔵書を誇る五十嵐キャンパスの附属図書館は、通常の図書館機能に加えて、ネット接続可能なパソコン、AV機器、外国語学習教材を備えた自主学習スペース「ラーニング・コモンズ」が充実した、学生生活に欠かせない場所となっています。また、学習をサポートする「ラーニングアドバイザー」など、様々なサービスも提供されています。休業期間等を除き、平日・土日祝とも22時まで利用できます。詳しい利用方法は図書館のウェブサイトをご確認ください。

学生食堂（第1）

丼ものや麺類から一品ものの組合せまで、季節ごとに変わる豊富なメニューが、低価格で提供されています。
このほか、総合教育研究棟の近くに第2食堂&ベーカリーショップ、大学会館の隣に第3食堂があります。新入生の食を支えています。
お支払いは、簡単&スピーディーな「生協電子マネー」が便利です。

コンビニエンスストア

新潟大学構内には、福利厚生施設として、生協の他にローソンが出店しています。
大学の広報コーナーが併設されたラウンジは、学生でいつも賑わっています。